

HP Client Automation

新機能およびリリース ノート

ソフトウェア バージョン: 7.50 / 2009 年 5 月



重要な注意:

Client Automation バージョン 7.20 の発表にあたり、HP は [Core および Satellite](#) という 2 つの新しいサーバー コンポーネントを導入することによって、当社製品のインストール、設定、および使用法の簡素化と合理化を実現しました。これらのサーバー コンポーネントにより、当社製品のすべての機能を網羅した、エンド ツー エンドの体験を実感いただけます。

Core および **Satellite** (HPCA メディアの Documentation ディレクトリにある『HPCA Core および Satellite 入門 およびコンセプト ガイド』を参照) は、**Windows Server** を主なインフラストラクチャ プラットフォームとして使用している、新規に **Enterprise**、**Starter**、および **Standard** ライセンス エディションを購入したお客様、またはバージョン 7.20 の **Core** および **Satellite** の実装から移行する既存のお客様にご利用いただけます。

UNIX インフラストラクチャのサポートをお求めの既存のお客様および新規のお客様は、『HPCA Configuration Server、Portal、Enterprise Manager 入門ガイド』をご参照のうえ、HP の **Client Automation** インフラストラクチャのインストール、設定、および使用を別の手段で実行する方法についてご確認ください。



HPCA Portal ユーザー インターフェイス

HPCA の統合コンソールの登場、OS および HPCA エージェント配布ウィザードなどのさまざまなアップグレード機能の追加、またロール ベースのアクセス制御により、HPCA Portal のレガシー ユーザー インターフェイス機能に代わって HPCA コンソールが導入されています。

従来の HPCA 環境では、HPCA Portal のレガシー ユーザー インターフェイス機能に代わって Enterprise Manager コンソールが導入されています。

ただし、基盤となる Portal サービスは、デバイスおよびグループ リポジトリの管理のほか、HPCA エージェント配布などの特定のジョブ クラスのジョブ エンジン サポートの提供において、引き続き重要な役割を果たします。

このドキュメントでは、HP Client Automation (HPCA) 製品スイート 7.50 リリースでの変更点の概要を説明します。各製品の新機能を箇条書きで示す一覧、各製品の現在のソフトウェアおよびハードウェア サポートを示す表、このリリースの一部のコンポーネントと HPCA の旧バージョンとの下位互換性を示す表があります。

- [このバージョンについて](#)
- [ドキュメントの更新](#)
- [ソフトウェアとハードウェアの要件](#)
 - [下位互換性](#)
- [インストールに関する注意事項](#)
- [移行に関する注意事項](#)
- [機能強化と既知の問題](#)
 - [Core Server および Satellite Server](#)

- [Service Desk 用アダプタ](#)
- [Administrator](#)
 - [Admin Packager](#)
 - [Admin Publisher](#)
 - [Admin CSDB Editor](#)
- [Application Management Profiles](#)
- [Application Manager および Application Self-service Manager](#)
- [Application Usage Manager](#)
- [Batch Publisher](#)
- [Configuration Analyzer](#)
- [Configuration Baseline Auditor](#)
- [Configuration Server](#)
- [Distributed Configuration Server](#)
- [Enterprise Manager](#)
- [Extensions for Windows Installer](#)
- [Inventory Manager](#)
- [Knowledge Base Server](#)
- [Messaging Server](#)
- [Multicast Server](#)
- [OS Manager for UNIX](#)
- [OS Manager for Windows](#)
 - [ハードウェア設定管理](#)
- [Patch Manager](#)
- [Policy Server](#)
- [Portal](#)
- [Proxy Server](#)
- [Reporting Server](#)
- [Security and Compliance Manager](#)
- [Windows Terminal Server および Citrix のサポート](#)
- [ローカル言語のサポート](#)
- [サポート](#)
- [法定の通知](#)

このバージョンについて

- HPCA 7.50 リリースより、HPCA Starter および Standard が Core および Satellite のインストールの一部として含まれるようになりました。Core および Satellite コンソールで利用できる機能は、アクティブなライセンスによって異なります。詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門およびコンセプトガイド』を参照してください。
- **HPCA Portal ユーザー インターフェイス:** HPCA の統合コンソールの登場、OS および HPCA エージェント配布ウィザードなどのさまざまなアップグレード機能の追加、またロール ベースのアクセス制御により、HPCA Portal のレガシー ユーザー インターフェイス機能が HPCA コンソールとなりました。
ただし、基盤となる Portal サービスは、デバイスおよびグループ リポジトリの管理のほか、HPCA エージェント配布などの特定のジョブ クラスのジョブ エンジン サポートの提供において、引き続き重要な役割を果たします。
- Core および Satellite コンソールに多くの新機能が追加および統合されました。Core Server および Satellite Server の詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門およびコンセプトガイド』を参照してください。
- 多くの製品のソフトウェアおよびハードウェア要件が変更されました。現在のサポートの詳細については、[ソフトウェアとハードウェアの要件](#) (5 ページ)を参照してください。
- BSA Essentials Network は、BSA コミュニティでの共同作業や BSA 製品の付加価値コンテンツを強化するため、BSA Essentials Security および Compliance のサブスクリプション サービス、ツール、および機能へのアクセスを提供するオンライン ポータルです。Client Automation 向けには、Application Management Profiles、移行に関する最善実践、およびさまざまなツールとユーティリティがあります。アカウントを登録するには、<http://www.hp.com/go/bsaenetwork> にアクセスし、[Help and Support] をクリックして、[Need an account?] をクリックします。
- Security and Compliance Manager は新製品です。脆弱性管理、セキュリティ ツール管理、および適合状況管理の機能を備えています。詳細については、HP の営業担当者にお問い合わせいただくか、<http://www.hp.com/go/bsaenetwork> にアクセスして [Subscription Services] をクリックしてください。
- HPCA コンソールでアウトバンド管理 (OOBM) を使用できるようになりました。管理対象の vPro および DASH 対応デバイスのシステム電源やオペレーティング システムの状態にかかわらず、検出、修復、および保護が可能です。

ドキュメントの更新

このドキュメントの最初のページには、次の識別情報が含まれています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- 発効日。このドキュメントが更新されるごとに変わります。

HP Software 製品マニュアルの Web サイトで、最新のバージョンのリリース ノートを使用しているか、また製品マニュアルやヘルプ ファイルが更新されているかを常に確認してください。この Web サイトでは、HP Passport ID とパスワードが必要となります。お持ちでない場合は、次のサイトから登録することができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport サインイン ページの [New users - please register] のリンクをクリックしてください。

HP Passport ID とパスワードを取得したら、次のサイトへ移動します。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

- 1 [製品] リストから、製品名 (例: **Client Automation**) をスクロールしてクリックします。
- 2 [製品バージョン] リストから、バージョン番号をスクロールしてクリックします。
- 3 [オペレーティング システム] リストから、オペレーティング システムをスクロールしてクリックします。
- 4 [(省略可能): キーワード、フレーズを入力してください] ボックスに検索用語を入力することができますが、これは必須ではありません。
- 5 検索オプションとして、[自然言語]、[キーワード全部]、[キーワードのどれか]、[完全一致/エラー メッセージ] のいずれかを選択します。
- 6 並べ替えのオプションとして、[適合率]、[日付]、[表題] のいずれかを選択します。
- 7 入力した検索条件を満たすドキュメントの一覧が表示されます。
- 8 言語によってドキュメントをフィルタリングすることができます。**[言語を選択: 英語]** の隣にある下向きの矢印をクリックします。ドロップダウン リストから別の言語を選択します。
- 9 ドキュメントを **PDF** 形式で表示する場合は、そのドキュメントの **PDF** ファイル名をクリックします。

注意: PDF 形式 (*.pdf) でファイルを表示するには、お使いのシステムに **Adobe® Acrobat® Reader** がインストールされている必要があります。**Adobe Acrobat Reader** をダウンロードするには、**<http://www.adobe.com>** にアクセスしてください。

7.50 でのドキュメント ライブラリの変更

このリリースでは、ドキュメント ライブラリに次の変更を行いました。

- **Windows** 向けの **Core Server** および **Satellite Server** の新しいユーザー ガイドを追加しました。
 - **HP Client Automation Core Starter** ユーザー ガイド
 - **HP Client Automation Core Standard** ユーザー ガイド
 - **HP Client Automation Core** および **Satellite Enterprise** ユーザー ガイド
- **Starter**、**Standard**、および **Enterprise** ライセンス ユーザー向けに **HPCA Core** および **Satellite** の単一のインストールおよびコンセプト ガイドを作成するため、既存の情報をまとめました。
 - **HP Client Automation Core** および **Satellite** 入門およびコンセプト ガイド
- **Core Server** および **Satellite Server** で新しくサポートされるアウトバンド管理のためのユーザー ガイドが加わりました。
 - **HP Client Automation Out of Band Management** ユーザー ガイド

ソフトウェアとハードウェアの要件

特定の製品リリースでサポートされるのは、互換性の表に明示的に記載されているオペレーティング システムのみです。**HP** のソフトウェア リリースの初回出荷日より後にリリースされたオペレーティング システムは、別途記載がない限り、サポートされません。新しいオペレーティング システムがサポートされるようにするには、**HP** のソフトウェアをアップグレードする必要があります。

HP のソフトウェアはオペレーティング システムのサービス パックの新しいリリースをサポートしますが、最新のサービス パックに対して完全にテストされているのは **HP** のソフトウェアの新しいバージョンのみです。そのため、**HP** はお客様に対し、**HP** のソフトウェアの古いリリースと特定のオペレーティング システムのサービス パックの間で特定された互換性の問題を解決するために、**HP** のソフトウェアのアップグレードを要求する権限を留保します。

また、元のオペレーティング システム ベンダーによるサポートが終了するオペレーティング システムについては、(カスタム サポート契約にかかわらず) そのベンダーが当該オペレーティング システムのサポートを終了すると同時に **HP** ソフトウェアによるサポートも終了します。

HP は製品バージョンの廃止を定期的に発表しています。現在発表されている廃止プログラムについては、**HP** サポートにお問い合わせください。

表 1 に、このリリースのソフトウェアとハードウェアの要件をまとめています。

[illegible][illegible]

Limited support for streamlined Satellite on Workstation editions in "proxy server" mode

シンクライアント サポート

次の表は、サポートされているシンクライアント デバイスとオペレーティング システムの一覧です。

表 2 サポートされているシンクライアント デバイス

モデル	オペレーティング システム
T5720	XPE
T5725	Debian
T5730	XPE
T5735	Debian
T5530	Win CE 6.0
T5630	WES、XPE
T5545	ThinPro
T5540	WinCE 6.0
gt7720	WES、XPE
gt7725	ThinPro GT

データベース サーバー

次の表は、HPCA 製品でサポートされているデータベース サーバーの一覧です。制限事項やその他の情報については、製品ドキュメントを参照してください。



Intel SCS (OOBM 機能に必要) のサポートされているデータベースについては、HPCA Core 配布メディアの Media\oobm\win32\AMT Config Server ディレクトリにある『Intel AMT SCS Version 5.0 インストール ガイド』を参照してください。

表 3 サポートされているデータベース サーバー

データベース サーバー	バージョン
Oracle	10.2.0.3
	11.1.0.6
Microsoft SQL Server	2005
	2008
SQL Express	2005
	2008

Oracle の要件

必要な Oracle ユーザー ロール

- CONNECT
- RESOURCE

必要な Oracle ユーザー システム権限

- CREATE ANY VIEW
- SELECT ANY TABLE
- UNLIMITED TABLESPACE
- UPDATE ANY TABLE

MS SQL Server の要件

- MS SQL Server がスタティック ポートを使用するように設定する必要があります。スタティック ポートの使用方法の詳細については、SQL Server マニュアルを参照してください。

下位互換性

使用終了

バージョン 4.2、4.2i、および 5.0 は使用終了 (EOL) プログラムの対象になっています。EOL の詳細については、HP Software サポート ポータル (<http://support.openview.hp.com/prod-sppt-lifecycle/index.jsp>) を参照してください。バージョン 7.5 (4.2i をお使いのお客様は 7.51) へのアップグレードをお勧めします。

次の表に、HPCA 7.50 リリースと旧バージョンの一部のコンポーネントの下位互換性情報を示します。

表 3 **Agents & Administrator**

説明	CM 4.x RCS \ データベース	CM 5.x Configuration Server \ データベース	CM 4.x Client オブジェクト	CM 5.x Agent オブジェクト	CM 7.x Agent オブジェクト
CM 4.x, 5.x Agents\Clients	○	○			
CM 4.x System Explorer, Packager, MSI Publisher	○	X			
CM 5.x Configuration Server Database Editor, Packager, MSI Publisher	X	○			
CM 4.x Client Explorer			○	X	X
CM 5.x Agent Explorer			○	○	○
CM 7.x Agent Explorer	X	○	○	○	○

表 4 **Packaged Applications**

説明	4.x RCS への インポート	5.x Configuration Server へのイン ポート	7.x Configuration Server へのイン ポート
Packaged Applications in CM 4.x RCS	○	○	○
Packaged Applications in CM 5.x Configuration Server	X	○	○
Packaged Applications in CM 7.x Configuration Server	X	○	○

表 5 **Patch Agent**

説明	CM 4.x インフラ ストラクチャ 7.x Patch Manager	CM 5.x インフラ ストラクチャ 7.x Patch Manager	CM 7.x インフラ ストラクチャ 7.x Patch Manager
Patch Agent 3.x	○	○	X
Patch Agent 5.x	○	○	○ ¹
Patch Agent 7.x	X	○	○
1 The following patch reports don't work: Product Status, Patch Status and			

表 6 **OS Manager Agent**

説明	CM 4.x インフラ ストラクチャ と 2.1 OS Manager	CM 5.00 インフ ラストラクチャ と 5.00 OS Manager	CM 5.10 インフ ラストラクチャ と 5.10 OS Manager
OS Manager Agent 2.1	○	X	○ ¹
OS Manager Agent 5.0	○ ¹	○	○ ¹
OS Manager Agent 5.1	○ ¹	○ ¹	○
1 Except HP-UX re-installs			

表 7

インフラストラクチャ コンポーネント

説明	CM 4.x インフ ラストラクチャ	CM 5.00 インフ ラストラクチャ	CM 5.10 インフ ラストラクチャ	CA 7.x インフ ラストラクチャ
Enterprise Manager 5.1 ¹	X	X	○	X
Security and Compliance				X
OS Manager 2.1	○	X	X	X
OS Manager 5.00	X	○	X	
OS Manager 5.10 ¹	X	X	○	
OS Manager 5.11	X	X	○	
Configuration Server 5.10	X	○	○	X
Publisher 5.00	X	○	○	
Publisher 5.10	X	○	○	○
Publisher 5.11	X	○	○	○
Publisher 7.x	X	○	○	○
Messaging Server 5.10	X	○	○	X
Messaging Server 5.11	X	○	○	X
Messaging Server 7.x	X	○	○	○
Management Portal 5.10	X	○	○	X
Application Usage Manager 5.10 ²	X	X	○	
Application Usage Manager 5.11	X	○	○	
Application Usage Manager 7.x	X	○	○	○
Reporting Server	X	X	○	X
1 (5.10 インフラストラクチャが必要)				
2 (Messaging Server および Reporting Server のバージョン 5.10 が必要)				

インストールに関する注意事項

各製品のインストール手順は、それぞれの『入門ガイド』または『インストールおよび設定ガイド』に記載されています。これらのガイドは **Adobe Acrobat (.pdf)** 形式で、製品 **DVD** の \Documentation ディレクトリにあります。また、**HP Software** 製品マニュアルの **Web** サイトにもあります。URL と検索方法については、[ドキュメントの更新](#) (3 ページ) を参照してください。

Core Server および **Satellite Server** をインストールする場合は、『**HP Client Automation Core** および **Satellite** 入門およびコンセプト ガイド』を参照してください。

移行に関する注意事項

HPCA の現在のバージョンへの移行については、次の移行に関する注意事項を確認してください。

バージョン 4.2 より前の製品はサポート終了日を過ぎています。これらのサポートされていないバージョンから v7.5 へに移行は可能ですが、サポート対象外です。

現在のバージョンが

- **HPCA Core** および **Satellite 7.20** の場合: **Core** および **Satellite 7.50** に移行します。『**HPCA Core** および **Satellite** 移行ガイド』を参照してください。
- **4.2x**、**5.x**、または **HPCA 7.20 "Classic"** の場合: **HPCA** バージョン 7.50 "Classic" に移行します。メディアに収録されている、製品固有の移行ガイドを参照してください。

Classic 環境に移行する場合、拡張インフラストラクチャ コンポーネント (**Patch Manager**、**Reporting Server**、**Enterprise Manager** など) を移行する前に、主要インフラストラクチャ コンポーネント (**Configuration Server**、**Portal**、**Messaging Server**、**Proxy Server**、**HPCA** エージェントなど) を移行することをお勧めします。

移行に関するその他の注意事項

- **Batch Publisher:** 7.50 のインストール プログラムにより、設定ファイルを除くすべてのソフトウェアがアップグレードされます。これによって、以前にカスタマイズしたパブリッシュ設定を維持し、更新したソフトウェアとランタイム インタープリタとともに使用することができます。インストール手順については、『**HP Client Automation Enterprise Batch Publisher** インストールおよび設定ガイド』を参照してください。
- **Multicast Server:** 7.50 のインストール プログラムによって **Multicast Server** がアップグレードされるため、設定ファイル `mcast.cfg` に対して行ったカスタマイズを再適用するために次の手順に従う必要があります。
 - 1 既存の `mcast.cfg` ファイルをバックアップ (移動または名前を変更) します。
 - 2 **Multicast Server** をインストールします。
 - 3 7.50 より前の設定ファイルから新しい `mcast.cfg` ファイルにカスタマイズを適用します。



Multicast Server 設定ファイルの更新は以下のみです。

- `mcast::init {}` セクションにあるパラメータ。
- `mcast.cfg` の最後にある 4 つの省略可能なパラメータ: `-rimurl`、`-rcsurl`、`-adminid`、および `-adminpwd`

4 Multicast Server サービス **mcast** を再起動します。

詳細については、『HP Client Automation Multicast Server インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

- **SSL/Certificate Generation Utility:** このユーティリティを最新バージョンにするため、この HPCA リリース メディアから `certificate_mgmt` ディレクトリのコンテンツをコピーし、既存の証明書管理ファイルを変更します。詳細については、『HP Configuration Management SSL 実装ガイド』を参照してください。
- **Distributed Configuration Server (DCS):** この製品リリースでは変更はありません。
- **Mini Management Server:** 7.50 のインストール プログラムによって Mini Management Server がアップグレードされるため、設定ファイルに対して行ったカスタマイズを再適用するために次の手順に従う必要があります。
 - 1 既存の設定ファイル `rmms.cfg` をバックアップ (移動または名前を変更) します。
 - 2 最新の Mini Management Server をインストールします。
 - 3 7.50 より前の設定ファイルから新しい設定ファイル `rmms.cfg` にカスタマイズを適用します。
 - 4 Mini Management Server サービスを再起動します。
- **アウトバンド管理:** 以前のスタンドアロン バージョンのアウトバンド管理コンソールから 7.50 Core コンソールに現在搭載されているアウトバンド管理コンポーネントへの移行パスはありません。そのため、ネットワーク上の vPro デバイスの既存の OOBM システム防御の設定データ (フィルタ、ポリシー、ヒューリスティック、およびウォッチドッグ) を維持する方法はありません。詳細については、最新の『HP Client Automation Out of Band Management ユーザー ガイド』および『HPCA Core および Satellite ユーザーガイド』を参照してください。

機能強化と既知の問題

ここでは、HPCA 製品の一覧と新機能、解決済みの問題と既知の問題について説明します。

HPCA ドキュメント



マニュアルからテキスト ベースのコード例をコピーして貼り付ける場合、テキスト書式設定の文字が非表示で含まれていることが多いため、注意してください。これらの非表示の文字はコード行とともにコピーされて貼り付けられ、コマンドの実行に影響を及ぼして、予期しない結果を生む可能性があります。

Core Server および Satellite Server



HPCA Portal ユーザー インターフェイス: HPCA の統合コンソールの登場、OS および HPCA エージェント配布ウィザードなどのさまざまなアップグレード機能の追加、またロール ベースのアクセス制御により、HPCA Portal のレガシー ユーザー インターフェイス機能が HPCA コンソールとなりました。

ただし、基盤となる Portal サービスは、デバイスおよびグループ リポジトリの管理のほか、HPCA エージェント配布などの特定のジョブ クラスのジョブ エンジン サポートの提供において、引き続き重要な役割を果たします。



HPCA Core に組み込まれている **MySQL** データベース インスタンスは、ジョブやユーザーのロール割り当てについての情報を含むオペレーション データベースです。このデータベースの使用は HPCA が動作するために不可欠ではありません。しかし、コンソールやジョブ情報に **GUI** でアクセスするために必要です。

このデータベースには、ユーザーやエンジニアがアクセスできる要素はなく、拡張性はありません。これは意図的にロックされている専用の組み込みデータベースです。この用途のため、特別なサービス アカウントからしかアクセスできず、HPCA Core のローカル プロセスを処理するように設定されています。直接のネットワーク アクセスはできません。

- **HPCA 7.50** リリースより、HPCA Starter および Standard が Core のインストールの一部として含まれるようになりました。Core および Satellite コンソールで利用できる機能は、アクティブなライセンスによって異なります。詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』を参照してください。
- **HPCA コンソール:** HPCA 管理者が HPCA 環境を管理するために使用できる Web ベースのインターフェイス。このリリースで、Portal ベースのタスクのための HPCA Portal UI に代わるものとして導入されています。
- **ロール ベースのコンソール アクセス:** HPCA 管理者は HPCA コンソールを使用しているユーザーにロールベースの「アクセス レベル」を割り当てることができます。ユーザーに許可されるアクセス レベルを定義するロールには、管理者、オペレータ、およびレポータの 3 つがあり、実行できるタスクはそれぞれのアクセス権によって異なります。
- **Satellite の無人設定とインストール:** Satellite Server には Satellite のインストール後にアクセスできる XML ファイルがあり、これを使用してその後の Satellite Server のインストールのためのカスタム設定パラメータを指定できます。

- **HPCA コンソールのアウトバンド管理:** システム電源やオペレーティング システムの状態にかかわらず、HPCA 管理者が管理操作を実行できる新機能があります。
- **OS 管理インターフェイス:** リモート制御の監査、ターゲット設定のための新しいグループ インターフェイス、AD を使用した管理操作のほか、脆弱性管理、適合状況管理、およびセキュリティ ツール管理の機能があります。
- **[レポート] タブ:** 最初のページ読み込みの改善、クエリ結果の時間とサイズの制限、LDAP フィルタのパフォーマンス向上、検索範囲の改善を行いました。
- **HPCA コンソールのデフォルトのタイムアウト値**は 20 (分) です。この値 (`http.session.timeout.minutes`) は、`InstallDir/tomcat/webapps/sessionmanager/web-inf/sessionmanager.properties` で変更できます。
 - 最小有効値は **2 (分)** です。
 - 最大許容値はありませんが、HPCA コンソールのセキュリティを確保するため、セッション タイムアウトは妥当な時間である必要があります。
 - この値を変更した後、**HPCA-Tomcat** サービスを再起動します。
- **パッチ管理**
 - Windows および Linux オペレーティング システムを実行するデバイスでパッチ管理をサポートし、HP Softpaq のサポートを追加します。
 - パッチ管理に関連するレポートおよびダッシュボードのすべての設定、取得、運用、アクセスを HPCA Core コンソールから行うことができます。
 - Download Manager の Patch Agent オプションのサポートを追加します。この新機能により、通常の HPCA エージェント接続プロセス以外に、管理対象のデバイスに指定したパッチを適用するために必要なコンテンツの転送が可能です。転送プロセスは設定した制約に従って発生します。詳細については、『HPCA Core Enterprise ユーザー ガイド』の「Configuration」の章を参照してください。
 - パッチのメタデータ配布モデルのサポートを追加します。このオプションは、企業全体に Microsoft のパッチを配布するための代替方法となります。最初の取得とパッチ検出では、パッチ メタデータのみが使用されます。HPCA エージェントからの最初の要求があると、新しいコンポーネントである Patch Gateway を使用してパッチ バイナリ データがダウンロードされます。このコンテンツは社内の他のエージェントが使用できるようにキャッシュされますが、Configuration Server Database には格納されません。詳細については、『HPCA Core Enterprise ユーザー ガイド』の「Patch Management using Metadata」の章を参照してください。
- **配布タスクの管理 (DTM):** Windows オペレーティング システム向けの新しいジョブ サブシステムです。ブル モデルを提供し、最大の利点は「分散スケジュールの一元管理」です。HPCA 管理者は DTM を使用して、エージェントのジョブをスケジュールし、ジョブの詳細を把握できます。
- **グループ管理:** この機能によって、HPCA 管理者はグループを新規作成したり、既存のグループを変更、削除したりすることができます。
- **IPv6 サポート**
 - Core Server と Satellite Server の間、またこれらのサーバーと外部 LDAP サーバーの間で、IPv6 を選択して通信が可能です。
 - 詳細と制限事項については、『HPCA Core および Satellite Enterprise ユーザー ガイド』の付録「IPv6 Networking Support」を参照してください。
- このリリースでは、Application Usage Manager、KB Server、および Configuration Analyzer がサポートされています。
- 次の Client Automation コンポーネントはメディアにありますが、置き換わる HP ソリューションが存在するか、サポート終了を予定しているため、Core/Satellite 環境ではサポートされません。ただし、レガシーの Client Automation 環境ではサポートされています。

- Service Desk アダプタ
- Proxy Server: Core/Satellite 環境では、Apache ベースの Proxy Server が排他的に使用されます。Integration Server ベースのレガシー Proxy Server が HP CAE 7.50 メディアにあります。Core/Satellite 環境ではこれは余分な機能です。
- その他の改善と革新
 - 優先度の高い不具合の修正と改善を行いました。たとえば、非破壊イメージング、ROMS セキュリティ、7.20 より後のリリースの不具合の修正などです。
 - モバイルおよび仮想デバイスにより、HPCA 管理者がダッシュボードの各ペインに表示される情報を制限できます。
 - 新しい適合状況スキャン、レポート、ダッシュボードが加わりました。
 - 新しいモビリティ-適合状況 ダッシュボード機能が加わりました。
 - VMWare ThinApp との統合により、アプリケーションの仮想化をサポートします。

REXX スクリプト

次の REXX スクリプトが `HPCA_InstallDir\ConfigurationServer\rexx` にあります。



これらはフィールド開発されたスクリプトです。HPCA の正式なサポート プロセスの一部としてはサポートされていません。ただし、将来はサポートされ、BSA Essentials Network (www.hp.com/go/bsaenetwork) の [Client Automation] にある [Community Content] のセクションで更新されます。

- **BPRERESO:** AD ポリシー サポート スクリプト
- **RADBMPT:** RadDBUtil インポート ユーティリティ スクリプト
- **RADBPRT:** RadDBUtil エクスポート ユーティリティ スクリプト
- **RADDBULL:** RadDBUtil PATCHMGR プリテン/ZSERVICE 削除ユーティリティ スクリプト
- **TREEMPRT:** ライブ Configuration Server ツリー インポート (CSDB ドラッグ/ドロップ)
- **TREXPRT:** ライブ Configuration Server ツリー エクスポート (CSDB ドラッグ/ドロップ)

****解決済み** Core/Satellite と OS Manager: 複数のリソース ファイルに渡る Linux イメージの配布がサポートされない**

問題:	複数のファイルからなる Linux SOS で作成されたレガシー イメージの配布は失敗します。複数のリソース ファイル (ImageName.img、ImageName.002、ImageName.003 など) に渡って存在するイメージは失敗します。
原因:	Core/Satellite 環境でダウンロード中のファイルが適切に処理されません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core/Satellite と OS Manager: [CD/DVD からインストール] オプションが失敗する**

問題:	ImageDeploy.iso で [CD/DVD からインストール] オプションが失敗します。
原因:	Core/Satellite 環境で、無効なヘッダーのため、ファイルがディスクに適切に展開されません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core/Satellite と OS Manager: WinPE SOS 実行時に「ブート操作が失敗しました」というメッセージが表示される**

問題:	繁体字中国語などの国際化されたプラットフォームで WinPE サービス OS から Windows ベースのイメージを配布した場合、システムが最初に Linux サービス OS を起動すると、エラーが発生する場合があります。 Linux サービス OS が、OS サービスを配布できない場合に発生することがあります (WinPE で配布する必要があります .WIM イメージなど)。WinPE サービス OS で処理される必要がある国際化された OS サービス名またはハードウェア設定 (LME) 名を参照しているイメージ配布またはハードウェア設定要素では、システムが最初に WinPE サービス OS に起動して、国際化された OS またはハードウェア設定オブジェクト名を識別および処理する必要があります。
原因:	CA インフラストラクチャにより提供されたハードウェア設定要素 (LME) と OS のサービス名を含む XML ドキュメントは、WinPE サービス OS と Linux サービス OS とを切り替えられるときに、一貫してエンコーディングされません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core: Core コンソールの [設定] ページでライセンス ファイルをアップグレードしても、一部のコンポーネントサービスのライセンスが更新されない**

問題:	Core コンソールの [設定] ページを使用してライセンス ファイルをアップグレードした後も、コンポーネント サービスでライセンスが無効であるというレポートが表示されます。たとえば、Patch Manager にこの問題があることが判明しています。
原因:	更新されたライセンス ファイルが必要なコンポーネント モジュールが、Core コンソールの [設定] ページを通じて提供される新しいライセンス コンテンツを受け取っていないことがあります。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core または Satellite を TCP ポート 3466 が使用中のサーバーにインストールしようとすると失敗する**

問題:	デフォルトの TCP ポート 3466 がすでに使用中の場合、Core および Satellite のインストールが (エラー メッセージなしで) 失敗します。
原因:	インストール プログラムでは、必要な TCP ポート 3466 が使用可能であることを検証しません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Satellite と SSL および設定サービス: 同期後、dmabatch ログに無視できるエラーが記録される**

問題:	Satellites で SSL と設定サービスを有効にしている場合、アップストリーム ホストとの同期が成功した後、\DCS\ dmabatch.log にバックグラウンドエラー メッセージが記録されます。これらのエラーは、dmabatch プログラムが準備する各ドメインに存在します。例: Note: ===== Preparing Databases ===== Error: main: Background Error: can't read "dns": no such variable while executing "syslog note "\$tag host <\$host \$dns \$ip> does not match certificate"
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み**** [設定] ページの [設定] 領域への入力を保存した後、Satellite がアップストリーム ホストにメッセージを転送できない

問題:	Satellite の [設定] ページの [設定] 領域で [保存] をクリックすると、Satellite がアップストリームのサーバーにメッセージを転送できません。つまり、エージェントがレポートするデータが Core Server およびデータベースにレポートされません。 [設定] 領域には、SSL を有効にするためのチェック ボックスと、アップストリーム サーバーおよびライセンス ファイルのエントリがあります。
原因:	[設定] 領域で [保存] をクリックすると、Satellite の処理コードによって rms.cfg ファイルの登録転送セクションの URL パラメータに無効なエントリが設定されます。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み**** Windows CE シン クライアントのサポートに必要なシン クライアント サービスは Mini Management Service と呼ばれる

問題:	Core Server または Satellite Server で Windows CE エージェントをサポートするために必要な HP Client Automation シン クライアント サービスは、従来の Client Automation 環境では Mini Management Service という名前で呼ばれます。
原因:	Windows CE シン クライアントのサポートに必要な rmms サービスに、製品領域によって異なる表示名が割り当てられたためです。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み**** Core: Enterprise Manager および BSA Essentials Network のデフォルト設定を確認しないと接続エラーが発生することがある

問題:	Core の設定により、BSA Essentials Network レポート データベースの Enterprise Manager 設定のデフォルト設定が自動的に行われます。これらのデフォルト設定をそのまま使用すると、接続エラーが発生することがあります。
原因:	BSA Essentials Network レポート データベースのデフォルト設定は、ダイナミック ポートを使用する SQL Server データベースなどの一部のデータベース設定で正確ではないことがあります。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み**** 設定ファイルのエラーのため Multicast Server が動作しない

問題:	HPCA Multicast Server が動作しません。
原因:	mcast.cfg 設定ファイルの変更が必要です。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core および Satellite: RMRAM.INI ファイルの不正なポート番号が原因で、WinCE Agent サポートにエラーが発生する**

問題:	Core および Satellite 環境では、WinCE Agent をインストールした後、RMRAM.INI ファイルの一部のポート番号が誤って設定されます。
原因:	CAE 環境と Core および Satellite 環境では、WinCE Agent のインストールに共通の CAB ファイルが使用されます。RMRAM.INI ファイルの RPD_PORT および RIM_PORT のデフォルト値は CAE 環境では適切ですが、Core および Satellite 環境では誤っています。これらの RPD_PORT および RIM_PORT 番号は、HPCA エージェントをインストール後、手動で「3466」に変更する必要があります。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** 大規模なファイルを使用する Core/Satellite: ダウンロード速度が非常に遅い**

問題:	状況によっては、OS イメージやその他の大規模なファイルのダウンロードが非常に遅い場合があります。
原因:	すべてのリソース ダウンロードのプロキシ サーバーとして機能する Apache Web サーバーを、大規模なファイルの転送速度を速めるように最適化する必要がある場合があります。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Reporting Server 使用の Core: データ フィルタを [オペレーティング システム] に設定すると、エラー ページが表示される**

問題:	レポート データベース テーブル rrs_devicecache に作成された devicecache.filtervalue のカラム幅が短すぎます。
原因:	このカラムを作成するために Core Server が使用する前提条件スクリプトの値が誤っています。直接 Reporting Server を使用してテーブルを作成する場合、カラムは正しく定義されます。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** SSL が有効な Core: Enterprise Manager は、HTTP のポート 3466 でアクセスできるが、https://core_server:443/em では利用できない**

問題:	Core で SSL 処理を有効化すると、Enterprise Manager (EM) は Core の HTTPS ポート 443 (https://core_server:443/em) で使用できませんが、HTTP ポート 3466 (http://core_server:3466/em) でのアクセスが維持されます。
原因:	http-ssl.conf ファイルには、EM で SSL を有効化するための正しい設定がありません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core および Satellite: ディレクトリ サービス アカウントのコンソールへのアクセスを設定した後、「認証が変更されていません」が表示される**

問題:	[ディレクトリ ホスト] フィールドに IP アドレスでディレクトリ サービス アカウントのコンソールへのアクセスを指定すると、「認証が変更されていません」が表示されます。
原因:	ディレクトリ サービス アカウントでは [ディレクトリ ホスト] フィールドに IP アドレスを指定できません。これは、2008 年 7 月 バージョンの『Core および Satellite Getting Started および Concepts ガイド』を訂正する記述です。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み**** Core にインストールされた Portal: Linux デバイスに Client Automation Agent をインストールすると、「インストール メディアがありません」が表示される

問題:	Linux デバイスに Portal の「Client Automation Agent のインストール」タスクを使用すると、インストール メディアが存在しないというメッセージに続き、メディアの場所を想定しているパスが表示されます。
原因:	Core のインストール プログラムは、Linux エージェントのインストール メディアを適切な Portal の場所にコピーしていません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

SSL 経由のデータ ダウンロードに 7.5 Agent アップグレード パッチが必要である

問題:	7.50 HPCA エージェントは、アップグレード パッチを適用していない場合、HTTPS を使用してデータ ダウンロードを実行することはできません。そのため、HTTPS ハンドシェイクは、データ転送が行われる前に接続を閉じてしまいます。 注意: HPCA エージェントの TCP/IP 接続による SSL サポートは機能するため、この既知の制限に SSL サポートは含まれません。
原因:	HTTPS サポートを有効にするには、最新のエージェント コードを更新する必要があります。
回避策:	HTTPS 接続を有効にするには、7.50 HPCA エージェントのパッチが必要です。

Core: Portal LDAP ディレクトリのバックアップは Core Server ではサポートされていない

問題:	Windows NT サービスとして (たとえば、Core Server または CAS インストールから) Portal を実行する場合、Portal の ENABLE_BACKUP 設定パラメータを 0 に設定して維持する必要があります。
原因:	Windows NT サービス構成では、現在の CAE Portal のバックアップと複製 (セカンダリ slapd および slurpd プロセス) をサポートしていません。
回避策:	現在のリリースでの回避策はありません。Portal の ENABLE_BACKUP 設定パラメータを 0 (無効) に維持する必要があります。 現在のプロセス ベースの slapd/slurpd メカニズムは、使用されなくなる予定です。これらのプロセスは、Windows NT サービスの管理が実行するように変更中であり、次期リリースでは Open LDAP のマルチマスター複製メカニズムを使用ようになります。

Core コンソール: Active Directory オブジェクトの初期表示が 1500 メンバーに制限される

問題:	1500 以上のメンバーがある Active Directory オブジェクトを参照すると、Directory から「member」属性に最初の 1500 メンバーのみが返され、Core コンソールに表示されます。
原因:	基盤の Portal エンジンと Active Directory と通信するために使用される Web サービスは、拡張性のため、始めに最初の 1500 の Active Directory メンバーを返します。Core コンソールと Enterprise Manager には、残りのメンバーは表示されません。
回避策:	コンソールの検索パラメータを使用して微調整し、検索を絞り込んでください。

HPCA コンソールと OOBM SCS サーバー間の認証プロトコルとして NTLM を使用できない

問題:	現時点では、HPCA コンソールの OOB 管理サービスと SCS サーバー間の認証メカニズムに、NT LAN Manager (NTLM) v2 認証プロトコルを使用できません。このため、[設定] > [アウトバンド管理] > [デバイス タイプの選択] > [vPro デバイスの管理] を選択して SCS のプロパティを選択しようとすると、エラーが発生します。
原因:	これは、HPCA コンソールが使用する Apache HTTP クライアントの制限による現象です。
回避策:	当分の間、別の認証メカニズムを使用して、これらのコンポーネント間の安全な通信を確立する必要があります。

OOB DASH デバイスが起動順序に関係なくハードドライブから起動される

問題:	起動順序に USB が含まれており、かつ USB から起動できない場合、起動順序のその他の起動元に関係なく、システムはハードドライブから起動されます。このため、[操作] -> [アウトバンド管理] -> [デバイス管理] -> <DASH デバイス> -> [リモート操作] を選択して、DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。
回避策:	なし

[すべてをリフレッシュ] を実行しても OOB DASH デバイスの情報が更新されない

問題:	[すべてをリフレッシュ] 操作を実行しても、OOB DASH デバイス情報が更新されません。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > [すべてをリフレッシュ] を選択してすべてをリフレッシュ操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	これは既知の問題です。
回避策:	すべての DASH デバイスを明示的に選択し (DASH デバイスはデバイス タイプでソートできます)、リフレッシュ操作を実行してください。

ジョブ管理の一部のカラムでフィルタ機能が動作していない

問題:	データ グリッドのアイテムのフィルタリングの対象に、UI 表現ではなく基盤のデータ表現が使用されているため、ジョブ データ グリッドのフィルタリングが適切に機能しない場合があります。
原因:	データ グリッドの基盤のデータの表現が UI 表現とわずかに異なっている場合があります。
回避策:	フィルタ機能を使用するには、ツールチップに表示されているように、データ グリッドのターゲット アイテムの上にマウス カーソルを移動してください。

グループ管理ウィザードがキャンセルされると、子データ グリッドがクリアされる

問題:	グループ管理ウィザードを起動し、[キャンセル] をクリックすると、グループが作成されず、子データ グリッドがクリアされる場合があります。
原因:	現在表示されているディレクトリ オブジェクトの子を格納するために使用されるモデルが、グループ管理ウィザードでクリアされます。
回避策:	[リフレッシュ] をクリックして、子データ グリッド表示をリフレッシュしてください。

Core、Date/Time フォーマットがロケールに対応しない

問題:	ローカライズされていないスケジュール説明のテキストが、ジョブ データ グリッドの [スケジュール] カラムに表示されます。
原因:	ジョブ スケジュールのテキスト説明は、作成時にユーザーのロケールでデータベースに保存されます。
回避策:	具体的なジョブにまで進み、現在のロケールでローカライズされたスケジュールの説明を含むより詳細なジョブ情報を表示してください。

UTF-8 形式のパスワードを使用するユーザーがログインできない

問題:	UTF-8 形式のパスワードを使用する内部 (Portal) ユーザーはログインできません。
原因:	Portal の UTF-8 形式パスワードの処理に関する問題です。
回避策:	ASCII 形式のパスワードを使用してください。

初回セットアップ ウィンドウを使用すると、タスク通知に「空」と表示される

問題:	ログをダウンロードすると、「Flex アプリケーションが見つかりません」というメッセージが表示されます。
原因:	一般的に、ブラウザを閉じて開きなおさずに Macromedia Flash Player をフレッシュ インストールした後に表示されます。
回避策:	注意: これは不定期に発生する現象です。ある特定の順序で操作した場合にのみ発生します。 ブラウザを閉じてから、もう一度コンソール アプリケーションを起動してください。

レポートに入力したデータ フィルタが長すぎると、GUI に SQL エラー情報が表示される

問題:	長すぎる数値を指定すると、SQL エラーが発生します。
原因:	整数値の最大の長さに達したか超過しています。
回避策:	より短い値を指定してください。影響を受けているフィルタは、長い数値を入力するための要件を満たしていません。

レポート: メモリの範囲のソートが正しく機能しない

問題:	要約レポート、「総数 (メモリ別)」のソート順が正しくありません。
原因:	値は文字列として表示されます。
回避策:	なし

[最大メモリ容量] と [最小メモリ容量] のレポート データ フィルタが誤解を招く

問題:	Reporting Server の [最大メモリ容量] および [最小メモリ容量] フィルタが期待したとおりに機能しません。
原因:	フィルタは、「以上のメモリ (memory more than or equal to)」および「以下のメモリ (memory less than or equal to.)」として動作します。
回避策:	期待する結果を得るには、「原因」に示したように機能するとして使用してください。

デバイス探索ジョブや不正な認証情報をキャンセルすると、rmp mc の誤りが表示される

問題:	一部のメッセージは問題の解決を目的としていません。ジョブの詳細インターフェイス内のメッセージ カタログ キーを表示します。
原因:	メッセージ カタログ エントリが解決されていません。
回避策:	なし

デバイス管理での IP アドレスによる検索

問題:	IP アドレス (IPv6 を含む) によるソートを行うには、カスタムのメソッドが必要です。
原因:	IP アドレスは文字列として示されます。
回避策:	なし

完了したエージェントまたは OS 配布ジョブを削除できない

問題:	[削除] アイコンを使用して HPCA エージェントまたは OS 配布ジョブを削除しても、ジョブが UI にリストされたままになります。
原因:	これらのジョブを手動で削除する方法は現在サポートされていません。
回避策:	HPCA エージェントと OS 配布ジョブは、エーシング メカニズムによってのみ削除できます。 1. <code>ManagementPortal_InstallDir/etc/rmp.cfg</code> を開きます。 2. 次のパラメータを追加または変更して、維持するジョブ履歴の日数を示すようにします。 JOBHISTORYTTLDAYS 30 3. ファイルを保存します。 4. HPCA Portal サービスを再開します。 <code>rmp.cfg</code> ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。 Core Server: <code>c:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ManagementPortal\etc</code> HPCA Legacy: <code>c:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\ManagementPortal\etc</code>

同期中に無効な DTM ジョブをなおもエージェントにダウンロードできる

問題:	[無効] アイコンを使用して DTM ジョブを無効にしても、DTM サーバーと同期するときに、HPCA エージェントになおダウンロードできます。
原因:	DTM サーバーの欠陥により、無効なジョブが HPCA エージェントで利用できるままになります。
回避策:	[削除] アイコン ([無効] アイコンではなく) を使用して、HPCA エージェントで必要ない DTM ジョブを削除してください。

Agent または OS 配布ジョブの [ターゲットの詳細] パネルにターゲットが表示されない

問題:	デバイスのリストの対象の HPCA エージェントまたは OS 配布ジョブで、ジョブの詳細を表示しようとしてもそのジョブの [ターゲットの詳細] パネルにターゲットが表示されません。
原因:	デバイスのリストを保存するために一時グループが使用され、ジョブが完了すると、その一時グループが削除されたためです。
回避策:	回避策はありません。この問題は配布ジョブの機能に影響しません。

Agent または OS 配布が実行中またはスケジュールされている場合、ターゲットが 0 になる

問題:	HPCA エージェント配布ジョブまたは OS 配布ジョブが実行中またはスケジュールされている場合、[現在のジョブ] リストの [ターゲット] カラムに「0 個のターゲット デバイス」と表示されます。
原因:	ジョブがアクティブである場合、ジョブ エンジンがターゲット情報を返しません。
回避策:	回避策はありません。この問題は配布ジョブの機能に影響しません。

AD ユーザーが Agent または OS 配布ジョブを作成すると、ジョブの [作成者] が含まれない

問題:	外部の AD ユーザーが HPCA エージェントおよび OS 配布ジョブを作成すると、[作成者] フィールドが空になります。
原因:	HPCA エージェントと OS の配布ジョブの AD 作成者名が正しく抽出されません。
回避策:	作成者の追跡が重要である場合は、Portal を使用して HPCA エージェントと OS の配布ジョブを作成してください。

デフォルトでない Satellite インストール場所で、同期ジョブが機能しない

問題:	通知および DTM Satellite 同期ジョブは、デフォルトでない場所にインストールされた Satellite で機能しません。
原因:	Satellite 同期スクリプトは、デフォルトの場所にインストールされていない場合、正しく機能しません。
回避策:	デフォルトの場所に Satellite をインストールしてください。

OOB DASH デバイスが、起動順序に指定されていないソースを含むすべての起動元を使用しようとする

問題:	ユーザーが永続的な起動オプションを選択している場合、起動順序に指定されていないソースを含む、すべての起動元を使用しようとします。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [リモート操作] を選択して DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。
回避策:	なし

OOB DASH デバイスのブート設定の設定をデフォルトおよび永続的な起動に変更できない

問題:	ブート設定の設定をデフォルトおよび永続的な起動に変更できません。これを一回限りの起動に変更することはできませんが、ユーザーは、2 回目のブート設定の設定を一回限りの起動に変更できます。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [ブート設定] を選択してブート設定の設定を行うときにエラーが発生します。
原因:	リストされている初回ブート設定の設定は永続的なブート設定の設定にハード コーディングされています。
回避策:	なし

一回限りのブート設定の OOB DASH デバイスを再起動する前に起動順序操作を実行する必要がある

問題:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアの再起動操作に一回限りの起動のブート設定の設定を選択している場合、ユーザーは、再起動前に起動順序操作を実行する必要があります。実行しない場合、リモート操作が誤って動作します。また、ユーザーが明示的な起動順序操作を実行しても、再起動後に、起動順序がデフォルトの起動順序にリセットされます。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [ブート設定] を選択して起動操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題が原因です。
回避策:	なし

OOB DASH デバイスの初回起動元として不正なネットワーク コントローラが設定される

問題:	Dash が有効なデバイスでは、ネットワークを初回ブート デバイスとして起動順序を変更すると、初回起動元として、Broadcom DASH NIC の代わりに埋め込みネットワーク コントローラが設定されます。その結果、Broadcom NIC からの PXE 起動に失敗します。これは既知の問題です。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [リモート操作] を選択して DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題が原因です。
回避策:	この問題を回避するには、F10 の [セットアップ詳細] メニューを表示してください。[デバイス オプション] リストの [NIC PXE Option ROM のダウンロード] オプションを無効にすると、埋め込み NIC PXE オプション ROM の読み込みを防止できます。このオプションを無効にした後、Broadcom PXE からの起動を再試行してください。

DASH デバイスがグループで OOB デバイスとして表示されない

問題:	DASH デバイスは、HPCA スタティック グループに属しているのに、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [グループ管理] のグループに OOBM デバイスとしてリストされません。そのため、OOBM グループ管理でアウトバンド デバイスとして DASH デバイスを管理できません。
原因:	仕様による制限です。
回避策:	なし

OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって Tomcat Server サービスが停止する

問題:	OOBM が Windows Server 2008 x64 AMD64T でセットアップされていると、ソフトウェア リストの配布によって Tomcat Server サービスが停止します。そのため、Windows 2008 x64 システムでエージェント存在に関連する機能が利用できなくなります。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > [ソフトウェア リストの配布] を選択してソフトウェア リストの配布操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	この問題は、OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。
回避策:	なし

OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって、TLS モードにネットワーク エラー 26 が発生する

問題:	OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって、TLS モードにネットワーク エラー 26 が発生します。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > [ソフトウェア リストの配布] を選択してソフトウェア リストの配布操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	HP Client Automation がインストールされたマシンのクライアント証明書が正しく設定されていません。
回避策:	HP Client Automation がインストールされたマシンにクライアント証明書をインストールし、config.properties ファイルの「ca_server_commonname」プロパティの値に証明書の件名を指定してください。クライアント証明書のインストール方法および config.properties ファイルの場所については、『HPCA Out of Band Management ユーザーガイド』を参照してください。

OOB デバイスのリモート操作ウィザードの [タスク] ページから次のページに移動できない

問題:	OOB デバイスのリモート操作ウィザードがフリーズしてしまい、次のページに進めません。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [リモート操作] を選択して DASH デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	JRE のバージョンが正しくありません。
回避策:	JRE バージョン 1.6 以降をインストールし、Internet Explorer のオプションを選択して JRE プラグインをインストールしてください。このオプションを選択するには、Internet Explorer で [ツール] > [インターネット オプション] > [詳細設定] の順に移動し、[<applet> に JRE 1.6 を使用 (再起動が必要)] オプションを選択します。JRE のインストールと有効化が完了したら、Internet Explorer を再起動します。『HPCA Out of Band Management ユーザーガイド』の「トラブルシューティング」章の記載は誤りで、ここに訂正いたします。その章には、JRE のバージョンが誤って 1.5 以降と記載されています。

デバイスのプロビジョン状態が変更後、vPro デバイスで OOBM リモート操作を行うとエラーが発生する

問題:	vPro デバイスのプロビジョン状態を変更すると (TLS モードの変更および異なる SCS プロファイルでのデバイスの再プロビジョニングを含みます)、個別または複数の vPro デバイスでリモート操作ができません。
原因:	OOBM データベースと SCS データベースの情報が一致していません。
回避策:	プロビジョン状態を変更するデバイスを選択し、[オペレーション] -> [アウトバンド管理] -> [デバイス管理] 画面の [デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。または、デバイスを選択せずに、[デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。後者は、完了までに時間がかかりますが、すべてのデバイス情報をリフレッシュするため、OOBM データベースに SCS データベースの情報と一致する最新の情報が読み込まれます。

OOBM vPro デバイスの無線ネットワークで SOL/IDER セッションの確立ができない

問題:	OOBM サーバーは、SOL/IDER 操作に Intel のライブラリを使用しています。Intel ライブラリは、SOL/IDER 操作に、ポート 16994-nonTLS/16995-TLS でリモート vPro マシンへの TCP 接続を開きます。このライブラリでは、SOL セッションと IDER セッションの確立に多くのタイムアウト パラメータを使用できます。場合によっては、無線ネットワークで、デフォルトのタイムアウト パラメータ値を使用中に、Intel ライブラリが SOL セッションの確立に失敗することがあります。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <vPro デバイス> > [リモート操作] を選択して vPro デバイスで起動操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	vPro デバイスでは、無線通信で OOBM サーバーと通信すると時間が長くなります。このため、SOL/IDER 操作がタイムアウトする場合があります。
回避策:	なし

OOBM DASH デバイスで、一回限りのブート設定がリセットされない

問題:	DASH デバイスが再起動した後に、デバイスで一回限りのブート設定がリセットされません。リモート操作で一回限りのブート設定が選択または有効になっている場合、リモート操作が正常に完了した後に、選択解除または無効になりません。この問題が発生すると、以降のすべてのリモート操作は、常に一回限りのブート設定を使用するようになります。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [ブート設定] を選択して、DASH デバイスで一回限りのブート設定を設定するとエラーが発生します。
原因:	システム BIOS に関する問題です。
回避策:	[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > <DASH デバイス> > [リモート操作] を選択して再起動操作を実行する前に、一回限りのブート設定の起動順序を変更してください。

OOBM デバイス データベースに最新のデバイスがない場合、OOBM グループがリロードできない

問題:	OOBM グループがリロードできず、「指定された名前のデバイスはありません」エラーが表示されます。そのため、グループは更新されず、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [グループ管理] > [リロード] を選択してグループのリロード操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	OOBM データベースは、最新のデバイスで更新されません。
回避策:	OOBM デバイス探索操作をもう一度実行し、最新のデバイスに更新してください。この操作によって、グループのリロードに関するエラーは解決します。

vPro デバイスで OOBM リモート操作を実行しても何も起こらない

問題:	vPro デバイスでリモート操作を実行しても、結果またはエラー メッセージが表示されません。
原因:	- OOBM データベースと SCS データベースの情報が一致していません。 - ネットワークでデバイスが利用できない状態にあります。
回避策:	[デバイスの詳細] ウィンドウを閉じて、新しいウィンドウを開いてください。エラー メッセージを確認できるようになります。この問題が OOBM と SCS データベース間の不整合によって発生している場合は、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > [すべてをリフレッシュ] の [デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。

OOBM デバイス管理画面の警告のサブスクリプション ステータスが誤っている

問題:	HPCA が Windows Server 2008 x64 AMD64T にインストールされている場合、警告のサブスクリプション操作は正常に行われますが、[ステータス] カラムに誤ってレポートされます。このため、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] > [警告のサブスクリプション] を選択して、vPro デバイスで警告のサブスクリプション操作を実行するとエラーが発生します。
原因:	この問題は、OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。
回避策:	なし警告はサブスクリプションされると、正常に受信されますが、ステータスは正しくレポートされません。

OOB vPro デバイスで SOL/IDER 操作の telnet セッションを開始できない

問題:	HPCA が Windows Server 2008 x64 (AMD64T) にインストールされている場合、SOL/IDER 操作で telnet セッションを開始できません。ただし、起動操作は正常に行われるため、正しいメディアからマシンが起動されます。この問題により、修復の使用ケースは完全にサポートされていません。たとえば、BIOS の更新は実行できません。
原因:	デフォルトで、telnet クライアントは Windows Server 2008 にインストールされません。
回避策:	Windows Server 2008 のサーバー管理オプションを使用して、telnet クライアントをインストールする必要があります。

OOBM vPro および DASH デバイスのクライアント コンソールで telnet セッションが開かない

問題:	Windows Server 2003 64-bit プラットフォームの vPro および DASH デバイスのクライアント コンソールで telnet セッションが開きません。
原因:	OOBM は telnet 接続を開けません。
回避策:	HyperTerminal を使用して vPro デバイスのテキスト コンソールを表示してください。また、DASH デバイスのテキスト コンソールを表示するには、PuTTY クライアントを設定してください。

PuTTY クライアントは Windows 64-bit プラットフォームで OOBM DASH クライアント コンソールを表示できない

問題:	PuTTY クライアントは、Windows 64-bit プラットフォームで DASH クライアント コンソールを表示できない場合があります。
原因:	PuTTY は、クライアント DASH デバイスと接続を確立できません。
回避策:	なし

Windows Server 2008 に Active Directory がインストールされているとき、OOB vPro デバイスを管理できない

問題:	Windows Server 2008 に Active Directory がインストールされ、SCS がそのドメイン アカウントを使用していると、vPro デバイスは管理対象アウトバンドにはなりません。そのため、SCS ログインが失敗します。これは、ユーザーが [設定] > [アウトバンド管理] > [デバイス タイプの選択] > [vPro デバイスの管理] と選択して SCS 認証情報を変更しようとするときに問題になります。
原因:	OOBM のサードパーティ依存関係。
回避策:	なし

OOBM SCS の I18N の問題

問題:	HPCA コンソールは、英語以外のオペレーティング システムにもインストールできますが、ハードウェア BIOS や Intel SCS などの、基本となるコンポーネントや技術への依存関係からいくつかの制約があります。その結果、フィルタ、ウォッチドッグ、ポリシーなどユーザーが定義したアイテムのいくつかについては、[設定] > [アウトバンド管理] > [vPro システム保護の設定] を選択して英語以外の名前を入力することができません。BIOS セットアップ用の SOL コンソールは、サポートされる文字セットについてのみ機能します。同様に、その他の機能でも、英語以外のロケールでは期待通りには機能しないものがあります。数値、日付、時刻は、英語以外のオペレーティング システムのロケールでは表示されません。
原因:	ハードウェア BIOS や Intel SCS などの、基本となるコンポーネントや技術への依存関係。
回避策:	なし

英語以外のロケールで、OOB グループ管理機能がサポートされない

問題:	HPCA コンソールは、英語以外のロケールで OOB グループ管理機能をサポートしていません。英語以外のグループのリストを見ることはできますが、そのようなグループに対する操作は行えません。
原因:	アーキテクチャ上の制限
回避策:	なし

OOBM 機能の日本語ロケールで、英語のパス区切り文字が表示される

問題:	HPCA コンソールには、日本語ロケールで英語のパス区切り文字が表示されます。この問題は、OOBM 機能でのみ発生します。
原因:	この制限は、Intel SCS コンポーネントが原因です。
回避策:	なし

SSL を有効にした後、Apache サーバーが起動できず、インストール パスには西ヨーロッパ文字以外の文字が含まれている

問題:	Core または Satellite で SSL を有効にした後、Apache サーバーが起動せず、インストール パスには西ヨーロッパ文字以外の文字が含まれています。
原因:	Core Server および Satellite Server で使用する Apache のバージョン (Apache 2.2.11) には、OpenSSL 証明書コードに既知の I18N の問題があります。Core Server または Satellite Server が西ヨーロッパ文字 (cp1251/iso8859-1) 以外の文字を含むファイル システム パスにインストールされ、SSL を有効化しようすると、エラーとなり Apache サーバーを起動できなくなります。
回避策:	西ヨーロッパ系以外のシステムで SSL を必要とする場合、Core Server または Satellite Server は ASCII 文字のみを含むファイル システム パスにインストールしてください。また、それまでの Core Server または Satellite Server のインストールは、必要に応じて Windows の [プログラムの追加と削除] を使用して削除してください。

ディレクトリ ホストに IP アドレスが設定されていると、外部の Directory Server Account を使った Core コンソールへのアクセスがエラーになる

問題:	ディレクトリ ホストを IP アドレスで指定すると、コンソール認証はディレクトリ サービス アカウントでは機能しません。
原因:	IP アドレスを使用してディレクトリ ホストを定義するには、関連する要件がいくつかあります。たとえば、そのアカウントは DNS ホスト アクセス権を持ち、有効なグループ名であること、また、AD では各アカウントがユーザープリンシパル名 (userPrincipalName) を持つことが必要です。
回避策:	外部 Directory Server Account のディレクトリ ホストを、完全修飾されたホスト名を使用して指定してください。 または、 すべての Directory Server Account が userPrincipalName 属性セット、有効なグループ名、および DNS ホスト アクセス権を持つようにします。

OS Manager のある Core/Satellite および CAE Classic: Prepviz のアップロードで OSM サーバーのディスク容量が不足してもチェックしたり停止したりしない

問題:	イメージのアップロード処理では、OSM サーバー上にアップロードが正常に完了するだけの十分な空きスペースがあるかどうかの検証を行いません。空きスペースが不十分だと、アップロードがエラーとなります。Core/Satellite 環境では、アップロードは正常に終了しますが、OSM サーバーではアップロードされたイメージ ファイルの保存でエラーとなります。不完全なファイルは、それが自動的に削除されるまで、数分間ロックされます。CAE Classic 環境では、アップロードはエラーとなり、OSM サーバーでもアップロードされたイメージ ファイルの保存でエラーとなります。不完全なファイルは、OSM サーバーが再起動されるまでロックされたままになります。
回避策:	イメージのアップロードが正常に完了するよう OSM サーバーのディスクに十分な空きディスク スペースがあることを確認してください。OSM サーバーの \upload フォルダにロックされたイメージ ファイルがあり、CAE Classic を実行している場合は、OSM サーバーを再起動して、ファイルのロックを解除して削除できるようにする必要があります。Core/Satellite 環境では、ロックされたイメージ ファイルは自動的にロック解除され削除されます。

OS Manager のある Core/Satellite および CAE Classic: Windows ネイティブ インストール イメージを CD またはキャッシュからオフライン インストールするとエラーになる

問題:	CD またはキャッシュからの OS イメージのオフライン インストールは、Windows ネイティブ イメージではできません。
原因:	これらのイメージは、Windows Native Install Packager を使用して作成されます。インストールに必要なファイルは、Windows OS インストール プログラムとは互換性のないファイルのエンコーディングに一時的に変換されます。CD またはキャッシュからのオフライン OS インストール中は、このファイル形式は元のエンコーディングには復元されません。そのためインストールがエラーとなります。
回避策:	なし

Satellite: Directory Server Account ホストの認証ウィザードで IPv6 アドレスを入力すると、「URL エラー」となる

問題:	グローバル IPv6 アドレスを使用してディレクトリ サービス アカウントのディレクトリ ホストを定義すると、IPv6 を有効にした Satellite の認証ウィザードから「LDAP 接続を確立できません。不正な URL」というエラーが表示されます。
原因:	IP アドレスを使用してディレクトリ ホストを定義するには、関連する要件がいくつかあります。たとえば、そのアカウントは DNS ホスト アクセス権を持ち、有効なグループ名であること、また、AD では各アカウントがユーザープリンシパル名 (userPrincipalName) を持つことが必要です。
回避策:	外部 Directory Server Account のディレクトリ ホストを、完全修飾されたホスト名を使用して指定してください。

代替コード ページでのマルチバイト文字による TCL セットアップがエラーになる

問題:	マルチバイト文字が、INI ファイルに書き込まれません。
原因:	インストーラは、 <code>setup.exe</code> を使用して、現在アクティブなコード ページに設定を書き込みます。インストーラを英語ローケルで実行し、インストール パスにマルチバイト文字が使用されている場合に、マルチバイト システムではこれが問題になります。
回避策:	ソフトウェアをインストールするときに、ネイティブ ローケルを使用してください。そうすると、マルチバイト文字が正しいコード ページの INI ファイルに書き込まれます。

SSL を有効化 - 証明書のアップロードで Core Apache サーバーがクラッシュする

問題:	無効な SSL 証明書をアップロードすると、Apache サービスを起動できません。
原因:	HPCA コンソールでは、証明書を使用前に正しく検証しません。
回避策:	1. <code>regedit</code> を開きます。 2. <code>HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\HPCA-Apache</code> に移動します。 3. 変更する <code>ImagePath</code> 値を開き、コマンドラインの最後にある <code>-D ssl</code> を削除します。 4. <code>HPCA-Apache Windows</code> サービスを起動します。

特定の場所を指定して、SAT をインストールしても、CA Agent が "..\HPCA\Agent" の下にくる

問題:	<code>Satellite</code> をインストールする際、HPCA エージェントのコンポーネントのインストール時にユーザーが定義したターゲット ディレクトリは無視されます。
原因:	HPCA エージェントは、場所を指定せずにインストールされるため、デフォルトのインストール先が使用されます。
回避策:	<code>Satellite</code> のインストール後、コントロール パネルを開き、HPCA エージェントをアンインストールしてから希望の場所にインストールし直してください。

7.5 では、SSL モードのとき `dmabatch.log` に「Does not match certificate」のエラーが表示する

問題:	ログのいくつかに、次の構文エラーが表示されます。 <pre>Error: main: Background Error: wrong # args: should be "syslog level msg ?tag? ?ts?" while executing "syslog note "\$tag unable to parse subject for valid dns name - skipping man in the middle check""</pre> 注: このエラーは、SSL が有効になっている場合にのみ発生します。
原因:	中間者防御チェックが正しくありません。
回避策:	なしログにこのエラーがあっても無視してください。

メタデータを使ったパッチ配布: メタデータを使って CSDB にある既存のブリテンを再取得すると、そのブリテンが削除される

問題:	CSDB に (メタデータを使用せずに) パブリッシュされた Microsoft ブリテンは、メタデータを使用して再取得すると削除されます。
原因:	MSFT 取得には、パブリッシュされたブリテンを CSDB から消してしまうという問題があります。
回避策:	なし

Patch Agent オプション: Download Manager - 初期化遅延の指定は秒単位でなく分単位で示される

問題:	「遅延初期化」属性は、次の操作で表示される Patch Administrator Console のページで秒単位ではなく、分単位で示されます。 [設定] > [環境の設定] > [エージェント オプション] ページ > [Download Manager オプション]
原因:	このユーザー インターフェイスでは、「遅延初期化」値は秒単位に変換されません。変換が必要なのは、その値が Configuration Server Database > PRIMARY (ファイル) > PATCHMGR (ドメイン) > CMETHOD (クラス) > DISCOVER (インスタンス) に書き込まれるときです。
回避策:	手作業で分を秒に換算し、Download Manager の「遅延初期化」属性値に秒単位で入力してください。

Patch Agent オプション: Download Manager (RADSTGRQ): ネットワーク利用が適切に機能していない

問題:	[ネットワーク バンド幅] および [スクリーンセーバー モードでのネットワーク利用] に対する Patch Agent Download Manager のオプションが適切に機能せず、Patch Manager Agent にマイナスの影響が出ているようです。
原因:	これらの Download Manager オプションが期待どおりに機能していません。
回避策:	回避策はありません。Download Manager が使用するネットワークのバンド幅を制御するために、このオプションを使用しないでください。Patch Agent の [オプション] ページで Download Manager のオプションを設定するときに、[ネットワーク バンド幅] および [ネットワーク利用] のフィールドには、何も入力しないでください。

Patch Manager Agent: Configuration Server の PUSHBACK を設定しても、Patch Agent で有効にならない

問題:	Configuration Server からのプッシュバックが有効にならないため、パッチ接続の [再試行] オプションは適切に機能しません。
原因:	[再試行] オプションが正しく機能するには、patchagt.tkd と nvdkit という 2 つのコンポーネントの変更が必要です。
回避策:	次のサイトから、patchagt.tkd と nvdkit への修正プログラムを探し、入手できる場合には適用してください。 1. patchagt.tkd に対する修正は、HP Patch Manager 更新 Web サイトにポストされ、後にエージェントの更新の一部となります。エージェントの更新は、パッチの取得中に入手でき、修正は自動的にパブリッシュされ、配布されます。 2. nvdkit の修正情報は、[エージェントの更新情報] ページにポストされます。

Core および Satellite: [接続の延期] で、パッチのサービスの再起動フラグが空白として表示される

問題:	[接続の延期] ウィンドウには、パッチの [再起動要求オプション] が正しく表示されません。
原因:	サービスの [再起動] フラグが空白か、または正しく表記されていません。
回避策:	現時点では回避策はありません。Patch Manager の活動を延期する決定の根拠として、再起動要求フィールドを使用しないでください。

メディアに事前にパッケージされているブリテンは、パッチを全く配布しない

問題:	製品に事前にパッケージされているブリテンは、パッチを全く配布しません。
原因:	メディアに事前にパッケージされているブリテンには、パッチ バイナリが含まれていません。そのため、パッチのインストールには使用できません。これは、パッチ探索で使用できるよう意図したものです。
回避策:	事前にパッケージされたブリテンのパッチを取得して配布するため、 FORCE オプションと REPLACE オプションを YES にして取得を実行してください。 FORCE オプションと REPLACE オプションを YES にせず取得すると、機能しません。

パッチ ゲートウェイ: [URL リクエストのエクスポート] に、ダウンロード中にエラーとなった URL がリストされない

問題:	インターネットにアクセスするパッチ ゲートウェイの場合、[URL リクエストのエクスポート] 機能でダウンロード中にエラーとなった URL リクエストがリストされません。
原因:	[URL リクエストのエクスポート] は、patch.cfg で INTERNET オプションが N に設定されているときに行われた URL リクエストのみをリストします。[URL リクエストのエクスポート] は、プライマリ パッチ ゲートウェイをホストしているサーバーに対してインターネットが使用可能になっていない環境のみを対象としています。インターネット アクセスのないゲートウェイで作成された (未対応の URL の) [URL リクエストのエクスポート] リストは、インターネット接続のある他のゲートウェイ サーバーで [URL リクエストのインポート] を使用した後、ダウンロードできます。ダウンロードしたファイルは、プライマリ パッチ ゲートウェイ サーバーのゲートウェイ フォルダに後からコピーして戻すことができます。
回避策:	なし

パッチ ゲートウェイ: 特定の条件下で Core Server 上の HPCA Patch Manager サービスが起動できない

問題:	以下の操作が同時に発生すると、HPCA Patch Manager Server サービスを起動できません。 1.(INTERNET を Y に設定した) パッチ ゲートウェイは、パッチ バイナリ ダウンロードのエージェント リクエストを受け取りますが、以下のいずれかの理由からインターネットに接続できません。 1.1 ネットワークの問題 1.2 Web プロキシの問題 1.3 ベンダー サイトのメンテナンス 2.上記の状況では、HPCA Patch Manager Server のサービスは以下のいずれかの理由から再起動されます。 2.1 ユーザーが Core コンソールからパッチ管理の設定のいずれかを更新する。 2.2 ユーザーが Windows のサービス管理コンソールから手動でサービスを再起動する。
原因:	パッチ ゲートウェイは実際には HPCA Patch Manager Server のコンポーネントです。Patch Manager サービスを再起動するたびにパッチ ゲートウェイが初期化されます。パッチ ゲートウェイの初期化中、満たされなかったすべてのリクエストは、パッチ ゲートウェイ データベースである patchgw.mk から消去されます。失敗したリクエストが複数あると、クリーンアップを処理するコードがエラーを起動します。
回避策:	[HPCA Core のインストール ディレクトリ]\Patch Manager\etc\patch の下の patchgw.mk ファイルを削除し、HPCA Patch Manager Server サービスを再起動してください。

Core にインストールされた Portal: [CA 証明書ファイル] にファイル名しか指定しないと、ディレクトリ サービスへの LDAPS 接続がエラーになる

問題:	LDAPS を使用していると、Portal はディレクトリ サービスに接続できません。
原因:	[CA 証明書ファイル] フィールドには、CA 証明書ファイルへの完全修飾されたパスを入力する必要があります。
回避策:	ディレクトリ サービスに対して LDAPS 接続を設定するときは、Core コンソールの [設定] > [インフラストラクチャ管理] > [SSL] ページの [CA 証明書ファイル] フィールドに、完全修飾されたパスとファイル名を指定してください。

Core にインストールされた Portal: Portal からインストールされた HPCA エージェントが Configuration Server に接続できない

問題:	Core Server にインストールされた Portal を使用しているときに、デフォルトの Install.ini ファイルを使用すると、[Client Automation Agent のインストール] タスクの HPCA Configuration Server の [ホスト] および [ポート] のフィールドに指定された値が無視されます。これは次で説明する設計によるものです。
原因:	Core の HPCA エージェント メディアで提供されるデフォルトの Install.ini ファイルは、最初に Core に接続してクライアント オペレーション プロファイル (COP) 設定の同期をとるため、すべての HPCA エージェントのインストールを有効化するように事前に設定されています。こうした設定により、HPCA エージェントはその後の活動のために Satellite の適切なセットに接続されます。そのために、Portal を使用して HPCA エージェントを配布するときに、Portal UI ウィザードで指定された Configuration Server の [ホスト] および [ポータル] の値は無視されます。
回避策:	最初の HPCA エージェント配布のときにもっと柔軟な対応が必要な場合: 1. Install.ini ファイルの値 resolutionport および resolutionmanager をコメントアウトします。ファイルは、InstallDir/Media/client/default/win32 にあります。 2. 変更を保存します。 3. Portal を使用して、[Client Automation Agent のインストール] タスク中に Configuration Server の [ホスト] および [ポータル] の値を指定します。

Core RMS ログにエラー「無効なコマンド名 "remove"」が示される

問題:	通常、Messaging Server が処理する各メッセージデータ ファイル (df) には、メタデータ (qf) ファイルがあります。キューから対応する df ファイルのない qf ファイルを削除しようとすると、ログ ファイルにエラー メッセージ「無効なコマンド名 "remove"」が書き込まれてファイルが削除されません。
原因:	これは、df ファイルが削除されたのに qf ファイルが残っているという「普通ではない」状況下で発生します。一般に、df ファイルの処理中は qf ファイルは開いたままになります。エラーを受け取っても、キューの処理は停止しません。
回避策:	Messaging Server を停止し、対応する df ファイルがないアクティブなファイルまたは qf ファイルをキューから削除してください。その後で、Messaging Server のサービスを再起動します。

Application Self-Service Manager の [イベントの時間をスケジュール] 機能が、非 ASCII 名を持つサービスをサポートしない

問題:	Application Self-Service Manager では、非 ASCII 名を持つサービスについては [イベントの時間をスケジュール] 機能は働きません。
原因:	Application Self-Service Manager の [イベントの時間をスケジュール] 機能は、非 ASCII 名をサポートしません。そのようなサービスについては、スケジュールが保存されません。
回避策:	ユーザーは定期的に Application Self-Service Manager の [カタログをリフレッシュ] を実行して、非 ASCII 名を持つサービスに対してアプリケーションの更新が可能かどうかを判断し、その更新をインストールする必要があります。

一部の再起動の設定で、サービスを配布するジョブが休止せず、エラーで終了する

問題:	エージェントがすぐに再起動されないと、ジョブは休止しません。再起動設定が「ユーザーに確認してインストール後に再起動する」に設定されている複数のアプリケーションを配布する場合、エージェントが 4 分以内に再起動しないと、エラーが表示されてジョブが終了し、それに続く通知は実行されません。
原因:	
回避策:	再起動設定として、「ユーザーに確認せずにインストール後に再起動」を使用してください。

手動でインストールしたエージェントを削除すると、エージェント削除ウィザード ジョブがエラーで終了する

問題:	エージェント削除ウィザードを使用して、手動でインストールしたエージェントを削除しようとすると、エラーによりジョブが終了します。
原因:	
回避策:	エージェントは削除されますが、ジョブはエラーで終了します。

ドメイン探索を使用し、手動でデバイスをインポートすると、デバイスの複製が作成される

問題:	デバイスを手動でインポートすると、ドメイン探索の後エントリの複製が作成されることがあります。
原因:	これは常にあり得るシナリオです。MAC アドレス、dnshostname などの一意の属性を十分に指定せずにデバイスを手動で追加すると、デバイス探索が開始されるときに、新しいデバイスが手動で追加したデバイスと一致しないために、エントリの複製が作成されます。
回避策:	ドメイン探索を開始してください。探索で見つかったデバイスを手動で追加しないでください。

インフラストラクチャ サービスの配布と削除のジョブは、どちらも同じメッセージを表示する

問題:	インフラストラクチャ サービスの配布と削除のジョブの両方の詳細に、「HPCA Management Agent のインストールと設定をしています」という同じメッセージが表示されます。
原因:	どちらのジョブも、作業を開始する前に HPCA Management Agent をデバイスにプッシュ アウトしようとするため、共通のメッセージが表示されます。
回避策:	なし

Core にインストールされた Portal: ロケールが英語に設定されていると、i18n パスに正しくインストールされない

問題:	RMP: ロケールが英語に設定され、インストールパスが中国語のとき、setup-slapd.tcl は正しく実行されません。
原因:	Core をローカル OS コード ページとは異なる i18n パスにインストールしている場合 (OS が英語、パスが中国語)、これは有効な設定ですが非常にまれです。
回避策:	インストールされている OS と同じコード ページのインストール パスを使用してください。

Service Desk 用アダプタ

Service Desk は、新しいデータ ディレクトリでは機能しません。

問題:	HP OpenView Service Desk Management Server 5.10 パッチ 7 では、Service Desk は新しい「data」ディレクトリでは機能しません。
原因:	OVSD5.10 パッチ 7 では、データ ディレクトリが c:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software\ に変更されました。その結果、Service Desk は新しいディレクトリから設定ファイルを読み込めません。
回避策:	HP OpenView Service Desk Management Server 5.10 パッチ 7 をインストールするとき、「データ フォルダの選択」ステップで新しいデータ フォルダを C:\Program Files\HP OpenView\data に設定してください。

Administrator

Admin Packager

リンクとレジストリ キーをパッケージするには [コンポーネントの選択] モードが必要

問題:	リンクまたはレジストリ キーをパッケージ化するには、 Packager で [コンポーネントの選択] モードを有効化する必要があります。
原因:	Packager は、デフォルトではコンポーネントの選択モードを有効化しなくなりました。
回避策:	Packager のコンポーネントの選択モードを有効化するには、 PKGCOMP という変数を ZMASTER に加え、その値を「Y」に設定します。その後、 Packager で [コンポーネントの選択] モードが有効になります。

中国語と日本語の Windows Vista および Windows 2008 プラットフォームで、Admin Tool Packager がクラッシュする

問題:	中国語または日本語の Windows Vista または 2008 オペレーティング システムの入力フィールドに、ユーザーが I18N 文字を入力すると、 Packager がクラッシュします。
原因:	サードパーティ製ツールの依存関係からくる問題です。
回避策:	中国語または日本語の Vista または 2008 のオペレーティング システムで Packager を使用するとき、ユーザーが定義した入力フィールドには英語で入力してください。

Admin Publisher

Publisher が HKCU キーを転送する

問題:	Publisher がマシン コンテキストで HKCU キーを転送します。
原因:	Publisher はデフォルトで、 .reg ファイルをマシン コンテキストでパブリッシュし、 ZCONTEXT フラグの上書きを許可しません。
回避策:	HKCU ハイブ内のキーは、 HKLM キーとは別の .reg ファイルでパブリッシュする必要があります。また、別のパッケージに入れる必要もあります。 HKCU キーの転送後、 CSDB Editor を使用して、得られる EDR ファイルの ZCONTEXT フラグを「M」から「U」に変更してください。

パッケージに、存在しない FILE や PATH のインスタンスへの接続がある

問題:	レジストリ キーのみ (ファイルなし) でパブリッシュされたパッケージには、存在しない FILE や PATH のインスタンスへの接続がある場合があります。
原因:	作成する FILE や PATH のインスタンスがない場合でも、 Publisher はデフォルトで FILE や PATH への接続を補います。
回避策:	これは表面的な問題にすぎず、パッケージの配布には影響しません。

Admin CSDB Editor

CSDB Editor ランタイム エラー 339

問題:	このエラーは、CS Database Editor が制限されたユーザーから起動された場合に発生します。
原因:	CS Database Editor が制限されたユーザーによって起動されています。
回避策:	CSDB Editor は管理者権限を持つユーザーで起動してください。

レジストリ インスタンスを編集すると、CSDB Editor がエラーを表示する

問題:	インストール後初めて CSDB Editor でレジストリ インスタンスを編集しようとすると、エラーが返されます。
原因:	不明。
回避策:	CSDB Editor からログアウトしてからログインし直し、同じ操作を試みてください。次からはうまく行きます。

write などの特定のツールを編集に使用すると、CSDB Editor では編集したファイルを「コンポーネントの編集」を使用して転送できない

問題:	write.exe、notepad++ などのツールを使用すると、編集コンポーネント オプションを使用した編集済みファイルの転送がエラーになります。
原因:	上記の操作については、Notepad や WordPad などの標準の編集ツールのみがサポートされています。
回避策:	ファイルの編集には、Notepad または WordPad を使用してください。

Application Management Profiles

- AMP Agent: Application Manager Agent には、Application Management Profiles の実行のサポートが組み込まれました。Server Management Agent を別途インストールするためのこれまでの要件は削除されました。
- HP BSA Essentials Network: AMP など、最新の Client Automation Enterprise コミュニティのコンテンツを入手できるサイトです。

Application Manager および Application Self-service Manager

- SSL/HTTPS コミュニケーションはサポートされません。
- Windows ベースの HP Client Automation (HPCA) エージェント (旧 HP Configuration Management (CM) Agent) のデフォルトのインストール ディレクトリ パスは、次に変更されました。
Program Files\Hewlett-Packard\HPCA
- 接続の延期は新機能です。ユーザーは、システムで必要なアクションを遅延させることができます。この機能により、新しい接続の延期設定クラス (CDFCFG) が CLIENT ドメインに追加され、新しい RADSKMAN 設定 cdf も追加されます。
- HPCA Registration and Loading Facility (RALF) は、HPCA Core インフラストラクチャで管理されるシンクライアント デバイスに使用できるエージェント コンポーネントです。RALF によって、HPCA インフラストラクチャへのデバイスの自動登録、およびメイン コンソールから開始される HPCA エージェントのインストールの管理が行われます。
- HPCA エージェントの新しい下位機能が 1 つあります。

— **PlusHP** に、SMART Drive Alert Monitoring、HP Hardware Alert Monitoring、および HP Hardware BIOS 設定サポートが含まれます。

SSL 経由のデータ ダウンロードに 7.5 Agent アップグレード パッチが必要である

問題:	7.50 HPCA エージェントは、アップグレード パッチを適用していない場合、 HTTPS を使用してデータ ダウンロードを実行することはできません。そのため、 HTTPS ハンドシェイクは、データ転送が行われる前に接続を閉じてしまいます。 TCP/IP 接続に対する HPCA エージェント SSL サポートが機能します。この既知の制限には含まれません。
原因:	最新の HPCA エージェント コードには、 HTTPS サポートを有効化するための追加の更新が必要です。
回避策:	HTTPS 接続を有効化するには、 7.50 HPCA エージェントのパッチが必要です。

Windows CE エージェントのアンインストールの問題

問題:	マシンの再起動後、コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] から Windows CE をアンインストールすることはできません。
原因:	Windows フォルダから HP Client Automation Agent のアンロード ファイルが不足しています。
回避策:	エージェントを再インストールします。

Agent: 中国語の Win2008/Vista OS でエージェントを 5.11 から 7.5 にアップグレードしようとすると停止する

問題:	中国語の Windows 2008 OS で実行中のエージェントをバージョン 5.11 から 7.5 にアップグレードしようとすると、「以下のファイルは使用中です」というダイアログ ボックスの後、そのファイルを使用しているアプリケーションが表示されます。
原因:	5.11 エージェントと 7.5 エージェントでは使用している言語変換が異なるため、このエラーが発生します。
回避策:	回避策としては、 [無視] ボタンをクリックするか、サイレント アップグレードを実行します。

XPe で再起動すると RALF が表示されなくなる

問題:	HPCARalf75.msi でエージェントのインストールを開始せずに RALF を単独でインストールし、シン クライアントを再起動すると、 HPCA-RALF のインストールが表示されなくなります。
原因:	HPCA-RALF を単独でインストールすると Enhanced Write Filter Commit が起動されないため、書き込まれたデータが Flash を確定せず、再起動するとインストール済みビットが表示されなくなります。 RALF をインストールしてすぐ後に HPCA エージェントをインストールすると、確定が起動され、 RALF が永続的なものになります。
回避策:	HPCA-RALF を単独でインストールする場合、 EFW の確定を強制的に永続的になるようにします。

Vista で Self-service Manager を含む Agent をアップグレードしようとすると、使用中の一時ファイルが検出され、ユーザーの介入が必要になる

問題:	Agent のアップグレードで、 .tmp ファイルが使用中であることを示すダイアログ ボックスが表示されます。この問題が発生するのは、アップグレード中のエージェントに Self-service Manager が含まれ、アップグレードを Vista で実行している場合のみです。サイレント インストールでもダイアログが表示されます。
回避策:	アップグレード中、(ダイアログによって [無視] または [OK] をクリックして) ダイアログを閉じ、エージェントのインストールを続行します。

Macintosh PowerPC で Agent インストールが実行されない

問題:	Mac PowerPC (MacPPC) でインストールが実行されません。
原因:	ファイルが Windows フォーマットのためです。
回避策:	ターミナル ウィンドウで、 <code>sudo ./install</code> の代わりに <code>sudo ./setup</code> を実行します。管理者パスワードを入力します。ターミナル ウィンドウの背後にインストーラが表示されるため、前面に移動する必要があります。

Vista で Application Self Service Manager の実行中に Agent のメンテナンスの適用が失敗する

問題:	Vista で Application Self Service Manager の実行中に、Agent のメンテナンスの適用が失敗します。
原因:	この問題は、Vista でメンテナンスをユーザー モードで起動した場合に発生します。
回避策:	エージェントのメンテナンスは、Application Manager の通知、スケジュール接続、またはログイン スクリプトを使用して適用できます。

HP シンクライアントでの File-Based Write Filter の問題

問題:	HP シンクライアントまたは HP RPOS マシンに File-based Write Filter が存在し、使用していない場合、HPCA エージェントとインストールで予期しない動作が発生することがあります。
原因:	File-based Write Filter の存在が検出された場合、HPCA エージェントはその管理を試みます。
回避策:	HPCA がそれらの使用を試みないよう、File-based Write Filter の dll (FBWFDLL.DLL および FBWFLIB.DLL) の名前を変更する必要があります。

LOCATION クラスに、新しい Connect Deferral Manager (CDF) 設定クラス CDFCFG のための接続がない

問題:	LOCATION クラスに、新しい CDFCFG クラス専用の接続がありません。
原因:	デフォルトでは、CDF は無効です。したがって、LOCATION クラスには CDF のためのデフォルト接続はありません。
回避策:	CDF を有効にするには、管理者が CDFCFG クラスにインスタンスを作成し、適用可能な LOCATION インスタンスの中にある既存する未使用の <code>_ALWAYS_</code> 接続のいずれかを使用して、LOCATION クラスに接続する必要があります。

CDF での延期の後、radsched ログにバッファ サイズ不足のエラーが表示されます。

問題:	CDF での延期の後、radsched ログでバッファ サイズ不足のエラーがレポートされます。
原因:	CDF によって ZTIMEQ エントリが作成され、接続が後日に延期されます。CDF が使用する ZOBJID は、スケジューラがそのエントリを処理した場合にバッファ サイズの変更を引き起こすフラグです。
回避策:	これはログに残った警告であり、スケジューラの動作には問題ありません。

色に RGB 値を使用している場合に RSM が GPF エラーになる

問題:	RSM の RADUICFG インスタンスでカスタム色に RGB 値を使用している場合、RSM が GPF エラーになることがあります。
原因:	RSM では RGB 値を固有のフォーマットで認識します。コードでは RGB 値の使用を試みる前に検証が行われません。
回避策:	カスタマイズで色を指定する場合は、テキスト リテラル ("red"、"blue") か、「R,G,B」というフォーマットの RGB 値 (例: 255,255,255) を使用します。RGB フォーマットを使用する場合、16 進数表現はサポートされないため、10 進数で指定する必要があります。

Vista で Application Self-service Manager の実行中に Agent のメンテナンスの適用が失敗する

問題:	Vista で Application Self-service Manager の実行中に、Agent のメンテナンスの適用が失敗します。
原因:	この問題は、Vista でメンテナンスをユーザー モードで起動した場合に発生します。
回避策:	エージェントのメンテナンスは、Application Manager の通知、スケジュール接続、またはログイン スクリプトを使用して適用できます。

Debian を実行している Linux シン クライアントでコンソールからのリモート制御が使用できない

問題:	HPCA コンソールのリモート制御機能では、VNC Server との通信に HTTP が使用されます。これは、Debian または ThinPro を実行している最新の HP Linux シン クライアントでは動作しません。
原因:	HP Linux ベースのシン クライアントでは、VNC Server との HTTP 通信がサポートされません。リモート接続を行うには、VNC ビューアが必要です。
回避策:	これらのデバイスのリモート制御のためには、TightVNC などの VNC ビューアをダウンロードします。

TPM Enablement に出荷時のデフォルト パスワードが必要

問題:	互換性のある HP デバイスで Trusted Platform Module (TPM) を有効に設定するため、出荷時のデフォルト パスワードを使用する必要があります。
原因:	パスワードのリセットが有効になっていません。
回避策:	コンソールで TPM Enablement を設定する場合、出荷時のデフォルト パスワードを使用するか、[BIOS 管理パスワード] 設定を空白のままにします。

Vista で HPCA エージェントを修復または削除しようとすると、ファイルが使用中であることを示すダイアログが表示される

問題:	Vista で HPCA エージェントの修復または削除操作中に、ファイルが使用中であることを示すダイアログが表示され、閉じる必要があります。
回避策:	表示されたダイアログによって [無視] または [OK] をクリックして、ダイアログを閉じます。要求した修復または削除操作が正常に進みます。

Application Self-Service Manager の [イベントの時間をスケジュール] 機能が、非 ASCII 名を持つサービスをサポートしない

問題:	Application Self-Service Manager では、非 ASCII 名を持つサービスについては [イベントの時間をスケジュール] 機能は働きません。
原因:	Application Self-Service Manager の [イベントの時間をスケジュール] 機能は、非 ASCII 名をサポートしません。そのようなサービスについては、スケジュールが保存されません。
回避策:	ユーザーは定期的に Application Self-Service Manager の [カタログをリフレッシュ] を実行して、非 ASCII 名を持つサービスに対してアプリケーションの更新が可能かどうかを判断し、その更新をインストールする必要があります。

Application Usage Manager

- 次のホストで、SQL データベースへのデータのポストのサポートが追加されました。
 - SQL Server 2008
 - 最新の Oracle パッチ セットを適用した Oracle 11g リリース 1
- ODBC DSN で 32 ビット ドライバが必要:** 64 ビット システムで実行される Client Automation コンポーネントは、32 ビット エミュレーション モードで動作します。したがって、64 ビットの Windows プラットフォームで ODBC を使用する場合、32 ビット ドライバを使用する ODBC データベースの DSN を作成する必要があります。

Windows 64 ビット マシンで、C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、製品に必要な DSN を作成するか変更します。

Batch Publisher

- Batch Publisher は、Configuration Management から Client Automation へとブランド変更されました。
- Batch Publisher でサポートされるのは Linux および Windows オペレーティング システムのみです。
- オブジェクト ベースのパブリッシュはサポートされません。

Configuration Analyzer

データベース名に「.」文字が含まれる場合、状態ファイルのインポートが失敗する

問題:	データベース名に「.」文字が含まれる場合、状態ファイルのインポートが失敗します。
原因:	SQL Server では、BCP コマンドが [DatabaseName].[OwnerName].[TableName] などとして認識されます。 データベース名にピリオドが含まれる場合、BCP では 2 番目のパラメータ (OwnerName) として解釈されるため、問題が発生します。
回避策:	名前にピリオドを含まないデータベースを作成すれば、HPCA Configuration Analyzer の状態ファイルのインポートは問題なく動作します。

レジストリのセキュリティ情報が表示されない

問題:	レジストリのセキュリティ情報が表示されません。
原因:	HPCA Configuration Analyzer でインポートする状態ファイルは、State File Generator によって生成されたものです。State File Generator では、レジストリのセキュリティ情報が毎回格納されるわけではありません。 格納されている場合は HPCA Configuration Analyzer の State Details セキュリティ プロパティに表示されますが、格納されていない場合は State Details セキュリティ プロパティは空白です。
回避策:	回避策はありません。

Configuration Baseline Auditor

このリリースでの変更はありません。

Configuration Server

- ADMIN.ZCONNECT クラス属性 (DRIVEMAP、ROLE、SUBNET、MODEL、MANUFACT、LDS、LME) が追加されました。
- CLIENT クラス (CDFCFG、NTFYSEC) が追加されました。
- PRIMARY.SECURITY.ZSERVICE クラス (ZREPAIR、ZVERIFY、ZUPDATE、ZDELETE、ZCREATE) で変数の長さが 255 に変更されました。
- クラス属性 (PRIMARY.SYSTEM.ZMETHOD.ZSTOP001) が追加されました。
- RadDBUtil のコマンドライン パラメータに新しいエクスポート オプション **-substitute** が追加されました。

解決済み HP-UX で Configuration Server をシャットダウンしようすると、core.ZLICUTIL ファイルが表示される

問題:	HP-UX サーバーで実行中の Configuration Server をシャットダウンしようすると、ZLICUTIL 実行可能ファイルが起動されて実行に失敗し、コア ダンプが生成されることがあります。
原因:	シャットダウン中、プロセスによってプラットフォームが実行されているロケールの取得が試みられます。多くの場合、この呼び出しに対し、プロセスが認識できない予期しない NULL 値が返されます。これによって ZLICUTIL 実行可能ファイルが途中で終了します。
回避策:	このリリースでは回避策はありません。

SSL: Configuration Server が CJK ディレクトリ (I18N パス) で証明書を検出できない

問題:	Configuration Server が I18N パスにインストールされ、SSL Manager タスクが適切に設定されている場合、SSL Manager が起動に失敗し、Configuration Server のログに「証明書ファイルが見つかりません」というエラー メッセージが表示されます。
原因:	Configuration Server の起動時、SSL Manager が I18N パスの証明書ファイルを読み込めません。
回避策:	このリリースでは回避策はありません。

データベース移行中、カスタム データがデータベースの現在の情報よりも優先されないことがある

問題:	データベース移行中、カスタム データがデータベースの現在の情報 (コア データ) よりも優先されないことがあります。
回避策:	移行プロセスの完了後、DBDIFF ファイルの出力で、インポートが意図通りにされなかったもの (REPLACE=NO) がインポートされていることを確認します。

RadDBUtil でログ追加のための {-logmode a} が使用されなくなった

問題:	7.20 RC2 の RadDBUtil で、ログ追加のための {-logmode a} が使用されなくなりました。{-logmode a} にかかわらず、RadDBUtil の各インスタンスについて新しいログが生成されます。
原因:	LOGROLL 機能をコマンドラインから設定できるようにするための機能強化により、「-logmode a」(ログ追加) が動作しなくなりました。
回避策:	log.roll が raddbutil.exe によって無条件で呼び出され、logmode が無効になっているため、すぐに実行できる回避策はありません。ただし、出力先を異なるログファイルに指定し、そのログのコンテンツを別のログに追加して、実質的な追加を行うことは可能です。 例: 現在のスクリプトの内容が以下の場合、 <pre>raddbutil.exe export -output foo -walk 0 PRIMARY.POLICY.USER.RPS</pre> ../log/raddbutil.log が更新されます。 カスタム スクリプトで、このコマンドラインを以下のように変更すると、 <pre>raddbutil.cmd export -output foo -walk 0 PRIMARY.POLICY.USER.RPS</pre> raddbutil.cmd のコンテンツは次のようになります。 <pre>@set logfile=..\log\raddbutil.log @del /F /Q %logfile%.new raddbutil.exe %1 -logfile %logfile%.new %2 %3 %4 %5 %6 %7 %7 %9 %10 %11 @type %logfile%.new >> %logfile% @del /F /Q %logfile%.new</pre>

解決済み RadDBUtil でダイナミック接続が参照するクラスが不適切に削除される

問題:	RadDBUtil を使用して walk オプション「delete -walk 1」で削除を行い、ダイナミック接続を使用している場合、RadDBUtil によってクラスのダイナミック接続の接続先も削除されます。
原因:	「walk」オプション実行中の ABC.&(XYZ) -> ABC.* の解釈は本来はエクスポートのみに関連し、削除には関連しません。 XYZ の内容に不確実性があるため、エクスポートでは ABC.&(XYZ) は ABC.* にマップされる必要があります。また、同じ不確実性のため、削除ではマップされないようにする必要があります。しかし、ABC.* と削除にマップされ、意図した以上に削除されます。
回避策:	RadDBUtil の最新バージョンを入手します。

Distributed Configuration Server

- このリリースでは新機能はありません。

****解決済み** DCS と SSL: スレーブ側での cacert.pem エラーによってロック解除エラーが発生し、同期が失敗する**

問題:	SSL を使用して DCS 同期を実行すると、dmabatch で以下のエラーが発生します。 <pre>unlock Error: slave RCS(localhost:444) reason={bad certificate location "cacert.pem": no such file or directory</pre> また、Configuration Server Database がハードロック状態になり、同期が RC 16 で失敗します。
原因:	HPCA DCS の RC5 にバグがあります。
回避策:	CAE 環境: ...\\dcs\\cacert.pem を以下の場所にコピーします。 C:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\ConfigurationServer\DB Core/Satellite 環境: C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ApacheServer\conf\ssl.crt\ca-bundle.crt を以下の場所にコピーします。 C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Hewlett-Packard\HPCA\ConfigurationServer\DB\cacert.pem および C:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\dcs\\cacert.pem

****解決済み** DCS Source のインストールで I18N CA-CS DB パスがガベージとして読み取られる**

問題:	DCS Source コンポーネントをインストールしようとする、Source HPCA-CS Database パスを選択するダイアログでデータベース パスの非 ASCII 文字がガベージとして表示されます。
原因:	リフレッシュが実行されるまで、セットアッププログラムで 2 バイト文字が ASCII として表示されることがあります。
回避策:	[参照] をクリックしてディレクトリを選択し直すと、文字が適切に表示されます。

****解決済み** DCS で I18N 文字を含む DBPATH の読み込みが失敗する**

問題:	DCS Source コンポーネントをインストールした後、I18N DBPATH を含む HPCA-CS (2 バイト文字を含むパス) にアクセスしようすると、httpd-distributedcs-3473.log ファイルに警告メッセージが表示され、DCS が実行できません。 <pre>Warn: DCS: failed to load: bad DBPATH <C:/Program Files/Hewlett-Packard/CM/ConfigurationServeréŽ~çŠ³æ~/DB></pre> しかし dcs.cfg ファイルでは、DBPATH は以下のようになっています。 C:/Program Files/Hewlett-Packard/CM/ConfigurationServeræf æ™@/DB
原因:	2 バイト文字が ACSII 文字として不適切に処理されます。
回避策:	メモ帳を使用して dcs.cfg ファイルを開き、UTF-8 形式で保存します。これで、dcs.cfg ファイルの前に、3 文字の BOM が挿入されます。

Enterprise Manager

- ジョブ管理が更新され、**Distributed Task Management (DTM)** ジョブが含まれるようになりました。ターゲット デバイスは **HPCA** インフラストラクチャとの間で定期的に同期し、指示を受信して、指定されたスケジュールに従って特定のアクションを実行します。このスケジュールは、**HPCA Enterprise** コンソールで設定および管理できます。これは分散 (クライアントプル) 方式のジョブ管理です。

DTM ジョブは Windows エージェントでのみ使用できます。

- 以前は HPCA Portal ユーザー インターフェイスで提供されていた Operating System Management (OSM) 機能が HPCA Enterprise コンソール (または従来のコンポーネント ベースの HPCA インストールでは Enterprise Manager) で使用できるようになりました。HPCA Enterprise コンソールから直接、オペレーティング システムを個々のクライアント デバイスやデバイス グループに配布して管理できます。
- 脆弱性管理 (HPCA バージョン 7.20 で導入) に加え、HPCA に適合状況管理およびセキュリティ ツール管理機能が加わりました。詳細については、「[Security and Compliance Manager](#)」(72 ページ) を参照してください。



以下の既知の問題の一覧では、<InstallDir> プレースホルダを使用して Enterprise Manager のインストール場所を表しています。この場所の指定はインストール プロセスで行います。

Core および Satellite インストールでは、デフォルトのインストール場所は以下のとおりです。

C:\Program Files\Hewlett-Packard

従来の (Classic) HPCA Enterprise インストールでは、デフォルトのインストール場所は以下のとおりです。

C:\Program Files\HP\HP BTO Software



Enterprise Manager に組み込まれている MySQL データベース インスタンスは、ジョブやユーザーのロール割り当てについての情報を含むオペレーション データベースです。

このデータベースの使用は HPCA のコア (完全自動) 機能が動作するために不可欠ではありません。しかし、コンソールやジョブ情報に GUI でアクセスするために必要です。

このデータベースには、ユーザーやエンジニアがアクセスできる要素はなく、拡張性はありません。これは意図的にロックされている専用の組み込みデータベースです。そのため、特別なサービス アカウントでのみ、Enterprise Manager に対してローカルなプロセスにアクセスできるように設定されています。直接のネットワーク アクセスはできません。

** 解決済み ** EM 7.20: 脆弱性管理ダッシュボードの統計表示で、データが存在するのに 0 と表示される

問題:	CAE の初期インストールと OVAL 脆弱性の準備の後、脆弱性管理ホームページの脆弱性の統計で「インポートされた脆弱性: 0」と表示されることがあります。
原因:	レポートに入力するために使用するデータベース テーブルが更新されていません。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。

** 解決済み ** EM 7.20: [最も脆弱性の高い製品] ダッシュボード ペインの読み込みに非常に長い時間がかかる

問題:	[最も脆弱性の高い製品] ダッシュボード ペインの読み込みに長い時間がかかるか、タイムアウトすることがあります。
原因:	大容量データセットが存在する場合、[最も脆弱性の高い製品] ペインのために使用される基本クエリの完了に長い時間がかかります。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** EM7.20: HP Live Network 設定ページの [更新とデータベース] タブにある [リセット] ボタンがほとんど、またはまったく機能しない**

問題:	Live Network 設定ページの [更新とデータベース] タブにある [リセット] ボタンでは、フォームの値が編集セッション開始時の初期値にリセットされるようになっています。しかし一部の値がリセットされません。
原因:	このページの [リセット] ボタンが一部のフィールドに対して機能しません。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** EM7.20: ディレクトリ サービス – [リセット] ボタンをクリックした後、保存できない**

問題:	既存のディレクトリ サービスの更新中に [リセット] をクリックすると、保存しようとしたときに「フィールドが入力されていないか無効なデータが含まれています」というエラーが表示されます。
原因:	フォーム送信ロジックでは、リセットによって、変更が行われていなくてもフィールドが変更されたとみなされます。そのため、フォーム送信ができません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** EM 7.20: HP Live Network でコンテンツ取得の成功がレポートされたのに、ログ ファイルに接続エラーが表示される**

問題:	HP Live Network のコンテンツ更新 (取得) で成功がレポートされたにもかかわらず、ログ ファイルに接続エラーが表示されます。
原因:	接続エラーがある場合、HP Live Network コネクタが適切なエラー コードで終了しないことがあります。HPCA はコンテンツ取得を、ダウンロードする新しいコンテンツがなかった成功した取得として処理します。接続エラーが発生する一般的な原因は、プロキシの設定か HP Live Network の認証情報が不適切なことにあります。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** EM 7.20: ディレクトリ サービスの設定を変更すると、パスワードが空になる**

問題:	LDAP ディレクトリ の設定の変更を、適切なパスワードを再入力しなくても保存できます。管理者が [保存] をクリックすると、ディレクトリ サービスは空のパスワードで保存されます。LDAP ソースが表示されなかったり、リーフノードが適切に展開されなかったりすることもあります。
原因:	保存した空のパスワードは無効です。LDAP ソースからはその他のデータは提供されません。ユーザー インターフェイスでは一部のデータが表示され、要求に対する応答がありますが、これは単にキャッシュによるものです。接続のステータスを確認すると、無効であることがわかります。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。パスワードを入力せずに保存しようとすると、エラー メッセージが表示されます。

**** 解決済み ** EM 7.20: 脆弱性管理レポートで脆弱性の数に一貫性がない**

問題:	個々のデバイス レポートを展開すると、[デバイスの詳細] セクションにある [検出された脆弱性] の数が、[デバイス脆弱性の詳細] テーブルに表示されている脆弱性の数と一致しないことがあります。
原因:	脆弱性管理レポートでは、ブリテン情報の表示に Vendor = Microsoft のフィルタがかかっています。ベンダーが Microsoft ではない場合、選択したデバイスの脆弱性の解決策は表示されません。そのため、数が一致しないことがあります。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** EM 7.20: データ形式がロケールに対応していない**

問題:	通知ウィザードにも Live Network 設定ページの [更新] タブにも、[開始日] があります。この日付は米国形式 (MM/DD/YYYY) で表示され、ブラウザのロケールによって変更されません。
原因:	[開始日] の実装には、標準の Adobe Flex コンポーネントが使用されています。これは、 Enterprise Manager 7.20 で使用されていた Flex 2 で国際化がサポートされていないためです。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** ナビゲーション ツリーでオブジェクト名が切り捨てられる**

問題:	ナビゲーション ツリー (ディレクトリ ツリーなど) を展開すると、ペイン内に収まらない展開項目の名前が現在のペイン幅に合わせて切り捨てられます。
原因:	Adobe Flex コードに不具合があります。これは Flex 2 Hot Fix 2 または Flex 3 で修正されています。
回避策:	HPCA バージョン 7.50 で解決済み。

**** 解決済み ** セッション タイムアウトによって Enterprise Manager が使用できない状態になることがある**

問題:	これは、コンソール セッションがタイム アウト処理を開始すると同時に、 Enterprise Manager コンソールでポップアップ ウィンドウが開くアクションを実行した場合に発生します。
原因:	アクションのポップアップとセッション期限切れ状態のポップアップの間でタイミングの問題が発生します。
回避策:	HPCA 7.50 で解決済み。

EM 7.50: UTF-8 パスワードを使用しているユーザーがログオンできない

問題:	内部 (PORTAL) ユーザーが UTF-8 パスワードを使用している場合、ログオンできません。
回避策:	ASCII パスワードを使用する必要があります。

EM 7.50: 完了した Agent または OS 配布ジョブを削除できない

問題:	[削除] アイコンを使用して HPCA エージェントまたは OS 配布ジョブを削除しても、ジョブが UI にリストされたままになります。
原因:	これらのジョブを手動で削除する方法は現在サポートされていません。
回避策:	HPCA エージェントと OS 配布ジョブは、エーシング メカニズムによってのみ削除できます。 1. <code>ManagementPortal_InstallDir/etc/rmp.cfg</code> を開きます。 2. 次のパラメータを追加または変更して、維持するジョブ履歴の日数を示すようにします。 JOBHISTORYTTLDAYS 30 3. ファイルを保存します。 4. HPCA Portal サービスを再開します。 <code>rmp.cfg</code> ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。 Core Server: <code>c:\Program Files\Hewlett-Packard\HPCA\ManagementPortal\etc</code> HPCA Legacy: <code>c:\Program Files\Hewlett-Packard\CM\ManagementPortal\etc</code>

EM 7.50: 同期中に無効にした DTM ジョブをなおもエージェントにダウンロードできる

問題:	[無効] アイコンを使用して DTM ジョブを無効にしても、DTM サーバーと同期するときに、HPCA エージェントになおダウンロードできます。
原因:	DTM サーバーの欠陥により、無効なジョブが HPCA エージェントで利用できるままになります。
回避策:	[削除] アイコン ([無効] アイコンではなく) を使用して、HPCA エージェントで必要ない DTM ジョブを削除してください。

EM 7.50: Agent または OS 配布ジョブの [ターゲットの詳細] パネルでターゲットが見つからない

問題:	デバイスのリストの対象の HPCA エージェントまたは OS 配布ジョブで、ジョブの詳細を表示しようとしてもそのジョブの [ターゲットの詳細] パネルにターゲットが表示されません。
原因:	デバイスのリストを保存するために一時グループが使用され、ジョブが完了すると、その一時グループが削除されたためです。
回避策:	回避策はありません。この問題は配布ジョブの機能に影響しません。

EM 7.50: Agent または OS 配布の実行中またはスケジュール中にターゲットが 0 になる

問題:	HPCA エージェント配布ジョブまたは OS 配布ジョブが実行中またはスケジュールされている場合、[現在のジョブ] リストの [ターゲット] カラムに「0 個のターゲット デバイス」と表示されます。
原因:	ジョブがアクティブである場合、ジョブ エンジンがターゲット情報を返しません。
回避策:	回避策はありません。この問題は配布ジョブの機能に影響しません。

EM 7.50: コンソール: Active Directory オブジェクトの初期表示が 1500 メンバーに制限される

問題:	Enterprise Manager コンソールからメンバーが 1500 を超える Active Directory オブジェクトを参照すると、Active Directory によって「member」属性で最初の 1500 メンバーのみが返されます。
原因:	基盤の Portal エンジンと Active Directory と通信するために使用される Web サービスは、拡張性のため、始めに最初の 1500 の Active Directory メンバーを返します。Enterprise Manager はその他のメンバーを認識できません。
回避策:	コンソールの検索パラメータを使用して微調整し、検索を絞り込んでください。

EM 7.50: HPCA Core のインストール パスに非 ASCII 文字が含まれる場合、HP Live Network 接続エラーが発生する

問題:	HPCA Core のインストール先ディレクトリ パスに非 ASCII 文字が含まれる場合、コンソールまたは Vulnerability Server のコマンドラインユーティリティ content-update.bat を使用して HP Live Network から更新を実行する試みでエラーが発生します。<install-dir>\VulnerabilityServer\logs ディレクトリの vms-server.log または vms-commandline.log ファイルを参照すると、以下のようなエラーが見つかることがあります。 UnicodeDecodeError: 'ascii' codec can't decode byte
原因:	組み込みの HP Live Network コネクタは、インストール パスに非 ASCII 文字が含まれている場合、適切に機能しません。
回避策:	組み込みの HP Live Network コネクタをパスに非 ASCII 文字を含まないディレクトリに配置し直し、HPCA が新しい場所を参照するように設定します。 1 HPCA インストールディレクトリに移動し、LiveNetwork という名前のサブディレクトリを見つけます。 2 LiveNetwork ディレクトリとそのすべてのコンテンツを、お使いのシステムのルート パス (例: C:\LiveNetwork) にコピーします。 3 HPCA コンソールを開きます。[設定] タブに移動します。[インフラストラクチャ管理] を展開し、[Live Network] 設定セクションを選択します。 4 [HP Live Network コネクタ] フィールドで、組み込みの HP Live Network コネクタをコピーした場所にパスを変更します。live-network-connector.bat ファイルのフルパス (例: C:\LiveNetwork\lnc\bin\live-network-connector.bat) を入力してください。 5 [保存] をクリックします。

EM 7.50: セキュリティ ツール管理スキャナが中国語の名前のファイアウォール ルールの取得に失敗する

問題:	ファイアウォール ルールが中国語の名前に変更されると、セキュリティ ツール管理 (STM) スキャナがルールを取得しません。sectools-director.log ファイルにはエラー メッセージは書き込まれません。
原因:	STM スキャナはマルチバイト文字を結果ファイルに適切に書き込みません。
回避策:	ファイアウォール ルールの名前を変更する場合、中国語の文字は使用しないでください。これは、HP Live Network の更新を通じて提供される STM の将来のバージョンで修正される可能性があります。

EM 7.50: 中国語 (簡体字) の Vista プラットフォームで適合状況スキャンが失敗する

問題:	中国語 (簡体字) の Vista プラットフォームで適合状況スキャンを実行すると、scap-director.log ファイルに以下のエラーが表示されます。 2008-10-28 15:57:45] Scanner did not complete normally: Code (CHILDSTATUS 2216 255) : STDERR Traceback (most recent call last): File "scapscanner.py", line 325, in <module> File "scapscanner.py", line 294, in main File "ovalparser.pyc", line 1703, in evaluate File "ovalparser.pyc", line 1539, in addAndPrintError File "ovalparser.pyc", line 1532, in printError UnicodeDecodeError: 'ascii' codec can't decode byte 0xd3 in position 84: ordinal not in range(128) [2008-10-28 15:57:45] Scan failed, aborting
原因:	適合状況スキャナは中国語 (簡体字) (SCH) の Vista プラットフォームから返されたデータを適切に解析できません。
回避策:	現時点ではありません。これは、HP Live Network の更新を通じて提供される適合状況スキャナの将来のバージョンで修正される可能性があります。

EM 7.50: データベースへの書き込みの際、CVE 定義が切り捨てられる

問題:	vms-server.log ファイルにはデータベースからの例外がリストされ、サイズ制限を超えているため更新できなかったレコードが示されます。また、さまざまな CVE/OVAL レポートで、CVE に関連する重大度が実際にある場合に、その CVE エントリに「不明」の重大度が表示されることがあります。
原因:	CVE の説明の長さが、サポートされている 2000 文字を超えています。
回避策:	CVE に「不明」ステータスが表示され、既知のステータスがある場合、次のアクションのいずれか (または両方) を実行できます。 - CVE の詳細を NIST か MITRE で調べる。 - 以下のような SQL 更新文を使用して、欠落している CVE コンテンツでデータベースを直接更新する。 <pre>UPDATE VM_CVE SET description = '... customer selected description text...', severity = 'High', cvss = '9.3', cvssimpact = '10.0', cvssexploit = '8.6', cvssvect = '(AV:N/AC:M/Au:N/C:C/I:C/A:C)' WHERE cveid = 'CVE-2008-4841'.</pre>

EM 7.50: 英語以外のロケールで、セキュリティ ツール管理および適用状況管理ダッシュボードのペインに誤ったタイムゾーンが表示される

問題:	英語以外の多くのロケールで、適用状況管理およびセキュリティ管理ダッシュボードのペインに表示される時刻は、現地のタイムゾーンではなくグリニッジ標準時 (GMT) で表示されます。時刻が GMT であることは示されません。
原因:	時刻は GMT で表示されており、現地のタイムゾーンではありません。
回避策:	なし

EM 7.50: ダッシュボードのペインが応答しなくなる

問題:	ダッシュボードのペインが、更新およびリフレッシュのリクエストに応答しなくなります。また、ダッシュボードのペインのツールバーのボタンが重なって表示される場合があります。
原因:	基盤の Adobe Flex コードで、Null ポインタの例外が発生しています。
回避策:	コンソールからログアウトし、もう一度ログインしてください。この問題は、将来リリースされる Adobe Flex をダウンロードすると解決する可能性があります。

EM 7.50: HPCA 操作ダッシュボードのエグゼクティブ ビューの表示ができない

問題:	HPCA 操作ダッシュボードのエグゼクティブ ビューにある操作ウィジェットは、中国語 (簡体字) ロケールで実行している場合、表示されない場合があります。
原因:	ローカライズされた文字は、正しく解釈されず、表示されません。
回避策:	ブラウザで英語ロケールを使用してください。

EM 7.20: HP Live Network コネクタ (LNC) を使用して脆弱性管理データを取得すると、無効なログイン認証情報が原因で取得に失敗しても成功としてレポートされる

問題:	Windows 2000 プラットフォームで HP Live Network コネクタ (LNC) を実行し、HP Live Network のコンテンツ サイトに無効なログイン認証情報が提供された場合、HPCA が HP Live Network に接続できなかったにもかかわらず、取得の結果は「成功」として脆弱性管理取得レポートに表示されます。 脆弱性管理取得レポートは取得に「成功」と表示していますが、脆弱性データはデータベースに読み込まれず、レポートに表示されません。さらに、脆弱性管理サーバー (VMS) および HP Live Network コネクタのログ ファイルには、認証情報が無効であることを示すエラー メッセージが表示されます。ただし、ログ ファイルには、ダウンロードされた脆弱性の数を示すエラー メッセージはありません。
原因:	LNC はログインできなくても、エラー コードを返しません。
回避策:	HP Live Network の設定を設定するときに、正しい HP Live Network ユーザー ID とパスワードを指定してください。また、次のログ ファイルで、実際に脆弱性データがダウンロードされているか確認してください。 CAE: <InstallDir>\VulnerabilityServer\logs\vms-server.log Core および Satellite: <InstallDir>\HPCA\VulnerabilityServer\logs\vms-server.log 両方: <LNC-InstallDir>\lnc\log\live-network-connector.log

EM 7.20: SSL が有効な Internet Explorer 6 で Enterprise Manager を実行するとエラーが発生する

問題:	Internet Explorer 6 で HTTP1.1 が有効である場合、そのブラウザと SSL を使用して Enterprise Manager を実行することはできません。
原因:	Internet Explorer 6 の制限です。
回避策:	Internet Explorer 6 で、[ツール] → [インターネット オプション] → [詳細設定] → [HTTP 1.1 の設定] で [HTTP 1.1 を使用する] オプションをオフにします。次に、Internet Explorer を閉じて、新しいブラウザ ウィンドウを開きます。現在の Internet Explorer のウィンドウをリフレッシュしただけでは問題は解決しません。 その他の回避策: Internet Explorer 7 にアップグレードします。

EM 7.20: 5.11 からの移行: インストーラが示すアップグレード ステータスが不整合である

問題:	HP Configuration Management バージョン 5.11 から HPCA バージョン 7.20 にアップグレードすると、アップグレード中にレポートされるステータスが「インストール」と示されたり、「アップグレード」と示されたりするため、混乱を招きます。
原因:	Enterprise Manager インストーラ パッケージ名は、バージョン 5.11 と 7.20 で異なります。
回避策:	なしアップグレードは正しく行われます。アップグレード中にレポートされるステータスのみに影響する問題です。

EM 7.20: 仮想マシンを開始できない

問題:	仮想マシンが起動しません。
原因:	ESX バージョン 3.5 Update 2 (ビルド番号 103908) のライセンスの欠陥により、特定の日付以降、仮想マシンが開始されません。
回避策:	ESX バージョン 3.5 Update 2 ビルド 110268 (またはそれ以降) にアップグレードしてください。

EM 7.20: サインアウトすると、Firefox ブラウザに ActionScript エラーが表示される

問題:	Enterprise Manager からサインアウトすると、Firefox ブラウザの Adobe Flash Player 9 プラグインで次のエラー メッセージがレポートされます。 Error #2044: Unhandled SecurityErrorEvent: text=Error #2047: Security sandbox violation: LocalConnection.send: ... cannot access http:// ... /em/flex/em.swf
原因:	これは、Adobe Flash Player プラグインでよく知られている問題です。この問題に関する詳細情報は、 https://bugs.adobe.com/jira/browse/FB-8927 を参照してください。
回避策:	この問題は頻発しますが、ブラウザ ウィンドウをリフレッシュすると解消されます。

EM 7.20: [管理] → [ディレクトリ] ページのコンテナを折りたたむと、ナビゲーション ツリーの現在のオブジェクトの選択は変更するが、右ペインに表示されるコンテンツは変わらない

問題:	時に、左側のナビゲーション ツリーのコンテナ ノードを折りたたむと、そのノードは選択されたノードに見えますが、右側のコンテナ ペインは更新されません。
原因:	ナビゲーション ツリーの表示は、必ずしも現在のノードを反映するというわけではありません。
回避策:	コンテンツ ペインで現在のノードにするノードをクリックしてください。

EM 7.20: ウィザード画面が正しくスクロールしない

問題:	ウィザード画面を小さくしてスクロール バーを表示すると、スクロール バーが正しく機能しない場合があります。そのため、スクロール バーをさらに大きくドラッグしないといけない場合があります。
原因:	スクロール バーが正しくドラッグされません。
回避策:	スクロール バーのボタン  、  、  、または  をクリックしてウィザード画面の新しい領域にスクロールするか、スクロール バーの特定の場所をクリックしてその場所までバーをジャンプさせてください。

EM 7.20: content-update.bat コマンドライン ユーティリティは、ディレクトリパスに括弧が含まれる場合、機能しない

問題:	content-update.bat を実行すると、次に似たエラーが発生します。 <pre>\Hewlett-Packard\HPCA\VulnerabilityServer\bin\..\..\tomcat\webapps\vms\WEB-INF\lib was unexpected at this time.</pre>
原因:	content-update.bat ユーティリティは、Enterprise Manager のインストールパスに括弧が含まれる場合、エラーが発生して終了します。content-update.bat ユーティリティは、括弧を含むディレクトリパスを正しく処理しません。
回避策:	括弧を含まないディレクトリに Enterprise Manager をインストールしてください。

EM 7.20: 5.1x から 7.20 に移行するとジョブ履歴が維持されない

問題:	HPCA バージョン 7.20 に移行すると、過去のジョブ履歴は利用できなくなります。
原因:	ジョブ プロセス エンジンが使用するデータベースは、バージョン 5.1 の HSQLDB からバージョン 7.20 の MySQL に変更されました。これは、ジョブ プロセス エンジンの安定性とパフォーマンスを高めるために適用された変更です。
回避策:	回避策はありません。

EM 7.20: 脆弱性管理サーバーが SQL Server に接続できない

問題:	vms-server.log または vms-commandline.log ファイルには、 com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerException のメッセージと SQL Server に接続できないことを示すさまざまな情報メッセージが表示されます。
原因:	脆弱性管理サーバーの設定には、レポート データベース サーバー、ポート、データベース名、ユーザー名、およびパスワードの指定が必要です。脆弱性管理サーバーが接続できない理由はさまざまですが、考えられる解決策を以下にリストします。
回避策:	SQL Server のデフォルトのスタティック ポートは 1433 ですが、SQL Server のインストールが別のスタティック ポート、またはダイナミック (特定されない) ポートを使用して設定されている可能性があります。 SQL Server のポート設定を確認し、次の場所にある SQL Server ポートの情報を更新してください。 Core および Satellite インストール: [設定] > [インフラストラクチャ管理] > [データベース設定] 従来のインストール: [設定] > [Live Network] > [データベース] タブ HPCA Core インストールでは、スタティック ポートを使用する必要があります。従来の (コンポーネント ベース) HPCA インストールでは、スタティック ポートとダイナミック ポートを選択できます。 次の情報は、従来の (コンポーネント ベース) HPCA インストールにのみ該当します。 [設定] > [Live Network] ページの [データベース] タブで次の設定を確認してください。 [データベース サーバー] は、データベースが存在するホスト名です。例: <pre>mydbserver.mycompany.com</pre> SQL Server のセットアップでデフォルトのデータベース以外のインスタンスが使用されている場合、インスタンスをサーバー名に追加する必要があります。例: <pre>mydbserver.mycompany.com\HPCA</pre> [データベース名] フィールドには、そのインスタンスの特定のデータベース名を入力する必要があります。 SQL Server の認証設定を確認してください。Windows 認証を使用している場合は、SQL Server の認証を使用してからレポート データベースの設定を適切に更新します。 SQL Server でダイナミック ポートが使用されている場合は、[レポート データベースの設定] セクションの [ポート] フィールドを空にしてください。

EM 7.20: <InstallDir>/CM-EC/tomcat/logs/ope.log ファイルにエラーがある

問題:	ope.log ファイルに多くのエラーとスタック トレースが表示されています。 ERROR GraphElement : action threw exception: Connection to host timed out: <hostname> ERROR GraphElement : action threw exception: Could not resolve host: <hostname> ERROR GraphElement: action threw exception: Connection to client has been dropped ERROR JobExecutorThread: exception in job executor thread.waiting 5000 milliseconds ERROR DbPersistenceService : hibernate commit failed ERROR Services : problem closing service 'persistence' ERROR JDBCExceptionReporter : Deadlock found when trying to get lock; try restarting transaction
原因:	ログ ファイルには潜在的な障害を示すためにさまざまなプロセスがエラーを生成しています。
回避策:	回避策はありません。これらのエラーは、安全に無視できます。

EM 7.20: Oracle データベースのユーザー名が数字で始まる場合、レポートを表示するときにエラーが発生する

問題:	レポートを表示しようとすると、Oracle の「無効なテーブル名」エラーが表示されます。
原因:	レポート データベースに使用される Oracle データベースのユーザー名が数字で始まっています。このため、予期しないエラーが発生したり、正常にレポートできなかったりする可能性があります。
回避策:	数字で始まらない Oracle データベース ユーザー名を使用してください (ただし、2 文字目以降に数字を使用することはできます)。

EM 7.20: Installer Repair によって、サービスまたはデータベースが修復されない

問題:	インストーラの 【修復】 オプションは、Enterprise Manager の一部のインストールとセットアップの問題を修復しません。具体的に、 【修復】 オプションは、HP Client Automation Enterprise Manager サービス、オペレーション プロセス エンジン データベース、または Java セキュリティ設定に関する問題を修正しません。
原因:	修正操作は、ファイルをデフォルトのインストール場所に再インストールするだけで、設定 (インストール後) アクションを実行しません。
回避策:	- 次のファイルのコピーを作成します。 <install-dir>\CM-EC\tomcat\webapps\em\WEB-INF\Console.properties このコピーを <install-dir> ディレクトリの外に保存してください。 - Enterprise Manager をアンインストールします。 - Enterprise Manager をインストールします。 - サービス ユーティリティを使用して、「HP Client Automation Enterprise Manager」サービスを停止します。 - 手順 1 で作成したコピーから、次のファイルを復元します。 <install-dir>\CM-EC\tomcat\webapps\em\WEB-INF\Console.properties 「HP Client Automation Enterprise Manager」サービスを開始します。 注意: 手順 1 で Console.properties ファイルが存在しない場合、またはそのファイルが破損している場合は、手順 2 および 3 のみを実行してください。Enterprise Manager の再設定は、手順 3 の後で実行します。

アップグレード後、webapps/em または webapps/ope の Tomcat インストールが破損している可能性がある

問題:	Enterprise Manager にアクセスしようすると、404 ブラウザ エラーが表示されます。em および ope ディレクトリのディレクトリとファイルが存在しない場合があります。 注意: これは、HP Configuration Management バージョン 5.11 から HPCA バージョン 7.20 に移行した場合に関することです。
原因:	Tomcat で WAR ファイルが正しく再配布されていない可能性があります。
回避策:	この問題には 2 つの回避策があります。 回避策 1 — アップグレード前に、HP CM Enterprise Manager サービスを停止してください。 回避策 2 —すでにアップグレードした場合は、次を実行してください。 1. HP Client Automation Enterprise Manager サービスを停止します。 2. 次のディレクトリにある Console.properties ファイルをバックアップします。 <InstallDir>/HP Openview/CM-EM/tomcat/webapps/em/WEB-INF 3. <InstallDir>/HP Openview/CM-EM/tomcat/webapps から /em および /ope ディレクトリを削除します。 4. HP Client Automation Enterprise Manager サービスを開始します。サービスを再開すると、WAR ファイルからアプリケーションが再度展開されます。 5. Console.properties ファイルを元のディレクトリに復元します。 6. HP Client Automation Enterprise Manager サービスを再開します。再開すると、アプリケーションによって Console.properties ファイルがもう一度読み取られます。

5.x から 7.20 に移行すると URL が正しく設定されない

問題:	HP CM 5.x から HPCA 7.20 に移行すると、オペレーション プロセス エンジン (OPE) および脆弱性管理サーバー (Enterprise Manager が使用する内部コンポーネント) の URL は Console.properties ファイルに正しく設定されません。
原因:	『HP Client Automation SSL Implementation ガイド』の「非 SSL アクセスを無効にする」手順に従って、server.xml ファイルで非 SSL HTTP ポート コネクタを無効にした場合、次の事項が該当することを確認する必要があります。 Console.properties ファイルに、openurl および vulnerability_management_server_url 設定が指定されている。 openurl および vulnerability_management_server_url 設定が Enterprise Manager との SSL 通信に使用されるポートを指している。
回避策:	アップグレード後、『HP Client Automation Enterprise Manager 移行ガイド』に記載されているとおり、SSL 通信に使用される正しいポートとプロトコルを指定してください。

Enterprise Manager コンソールがインストールしたショートカットから開かない (またはインストール プロセス中に開かない)

問題:	インストール中、デスクトップ ショートカットから、またはプログラム グループのアイコンから起動した、Enterprise Manager コンソールを開くブラウザ ウィンドウは、ポート 80 のローカル システム IP アドレスにリダイレクトされます。Web サーバーがローカル システムのポート 80 で実行している場合、その Web サーバーのデフォルト ページが表示されます。または、ブラウザに 404 エラーが表示されます。
原因:	Enterprise Manager サーバーのブラウザが、ローカル アドレスにプロキシ サーバーを使用しないように設定されていません。
回避策:	ローカル アドレスにプロキシ サーバーを使用しないように、ブラウザを設定する必要があります。 Internet Explorer では、[ツール] → [インターネット オプション] → [接続] タブ → [LAN の設定] ボタンを使用してこの設定にアクセスできます。[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない] を選択してください。 Firefox 2.x では、[ツール] → [オプション] → [詳細設定] → [ネットワーク] タブ → [設定] ボタンを使用してこの設定にアクセスできます。[プロキシなしで接続] ボックスに、「localhost, 127.0.0.1」と入力する必要があります。 Firefox 1.x では、[ツール] → [一般] セクション → [接続設定] ボタンを使用してこの設定にアクセスできます。[プロキシなしで接続] ボックスに、「localhost, 127.0.0.1」と入力する必要があります。

Enterprise Manager の実行速度が遅い

問題:	Enterprise Manager クライアント (コンソール) から Enterprise Manager サーバー (内部コンポーネント) にリクエストを送信すると、特定の状況において応答に時間がかかる場合があります。
原因:	Internet Explorer と Firefox のデフォルトの最大同時接続数は 2 です。
回避策:	Internet Explorer の場合: 次のレジストリ キーを編集します。 <pre>My Computer\HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\InternetSettings</pre> DWORD 値 MaxConnectionsPerServer に値 8 (推奨) を追加します。 Firefox の場合: Firefox の設定ページを編集します (ブラウザ ウィンドウに「about:config」と入力します)。network.http.max-persistent-connections-per-server の値を 2 (デフォルト) から 8 (推奨) に変更します。

無効なコンテキスト メニュー

問題:	9.0.47 以前のバージョンの Adobe Flash Player を使用しており、イメージで右クリックすると、誤ったメニューが表示されます (オプションに拡大と再生が含まれます)。これらのオプションは無効であり、使用できません。
原因:	以前のバージョンの Adobe Flash Player の不具合です。
回避策:	Adobe Flash Player バージョン 9.0.47 以降にアップグレードしてください。このバージョンへのアップグレードは、この問題の一部のみを修正するため、アップグレード後でもビジー (時計) カーソルが表示されているときに右クリックすると、無効なコンテキスト メニューが表示されます。この問題は欠陥としてレポートされており、Adobe の今後のリリースで修正される予定です。

無効なディレクトリ サービスを再開できる

問題:	ディレクトリ サービスの起動タイプが [無効] である場合でも、[設定] → [ディレクトリ サービス] タブの [再開] ボタンを使用して、そのサービスを開始できます。
原因:	HPCA Portal では、無効なディレクトリ サービスに対し、再開操作を実施できます。
回避策:	再開するのではなく、開始および停止操作を使用してください。

Enterprise Manager は属性名の現在のオブジェクト置換構文をサポートしない

問題:	Portal、Policy Manager、および Enterprise Manager では、ポリシー エンタイトルメントに定義された拡張属性の属性名について、現在のオブジェクトの置換がサポートされていません。また、この構文がサポートされる予定はありません。次は、サポートされているポリシー エンタイトルメント構文の例です。 <pre>+SOFTWARE/ZSERVICE < version = 1> +SOFTWARE/ZSERVICE < version=<<in.version>> > +SOFTWARE/ZSERVICE < version = 1> ; <<in.os>> == "XP"</pre> 未サポートの構文: <pre>+SOFTWARE/ZSERVICE < <<in.version>> = 123 ></pre>
原因:	また、この構文がサポートされる予定はありません。
回避策:	この構文が誤ってポリシー エンタイトルメントに適用されている場合、Portal でそのインスタンスを編集できます。

Console.properties ファイルのジョブのタイミングの設定が無視される

問題:	次のジョブのタイミング設定は、<InstallDir>\CM-EC\webapps\em\WEB-INF\Console.properties ファイルに含まれます。 group.processing.threads group.processing.target.delay.ms ただし、Enterprise Manager では、ジョブが作成されると、デバイスの通知タイプに基いてこれらの設定にデフォルトの値が表示されます。つまり、このファイルの設定は使用されません。これは混乱を招きます。
原因:	Enterprise Manager は通知タイプに基いてデフォルトの値を選択します。
回避策:	回避策はありません。

Firefox で、エラーが発生していないときにエラーがレポートされる場合がある

問題:	Enterprise Manager の [レポート] タブをクリックすると、特定のバージョンの Firefox ブラウザで Java Script エラーがレポートされる場合があります。
原因:	これは Firefox 固有の問題です。
回避策:	Enterprise Manager は仕様どおりに機能しています。回避策はありません。

ディレクトリ サービスの再開に失敗しても、成功としてレポートされる

問題:	[ディレクトリ サービス] 設定ページで、ディレクトリ サービスの再開が正常に行われなかったにもかかわらず、成功としてレポートされます。
原因:	再開リクエストに失敗したときに、Enterprise Manager が適切なステータス コードを返していません。
回避策:	詳細ページでリフレッシュしたステータスを確認するか、ディレクトリ サービス リストを見て実際のステータスを確認してください。

デバイス インポート ウィザードでインポートを行った後、テーブルがリフレッシュされない

問題:	デバイスがインポートされた後、デバイス インポート ウィザードは、[デバイス カテゴリ] → [VM サービス] → [ESX Server] のナビゲーション ツリーを自動的にリフレッシュしません。
原因:	デバイス インポート ウィザードが完了すると、[デバイス] コンテナの子テーブルのみが自動的にリフレッシュされます。
回避策:	デバイス インポート ウィザードを使用後、[デバイス カテゴリ] → [VM サービス] → [ESX サーバー] の子テーブルで [リフレッシュ] をクリックし、現在のツリーを最新の状態にしてください。

Microsoft Windows Server 2003 で、SSL を介して接続できない

問題:	Win2003 Server で、cert_mgr の期限切れの証明書が原因で、HTTPS を使用して Enterprise Manager が Portal に通信できません。HP CM バージョン 5.0 cert_mgr ツールを使用して証明書を生成した場合、Portal にアクセスしようとするこの問題が発生します。 Console.properties ファイルを削除してから HTTPS を設定した場合、接続できません。また、既存の Console.properties ファイルを使用すると、ディレクトリの読み込み中にエラーが発生します。
原因:	cert_mgr がキーの生成に使用した期限切れの証明書権限は無効になっています。Windows 2003 は、HTTPS 通信の確立中、期限切れの証明書チェーンを拒否します。
回避策:	移行後、最新バージョンの cert_mgr を使用して証明書をもう一度生成してください。

ジョブ プロセス エンジンへの通信が暗号化されていない

問題:	Enterprise Manager と「コマンドを通知」を実行するジョブ プロセス エンジン間の通信は、デフォルトでは暗号化されていません。
原因:	<InstallDir>/CM-EC/tomcat/webapps/em/WEB-INF/ Console.properties の openurl のデフォルト設定は、次のとおりです。 http://localhost\:8080/ope/resources これは、暗号化されていないチャネルです。
回避策:	Console.properties ファイルを修正し、openurl プロパティを https://localhost\:8443/ope/resources に変更してください。

80% でブラウザがフリーズする

問題:	Portal への SSL 通信を実行するシステムをアップグレードすると、80% でブラウザがフリーズします。
原因:	インストール中、次のファイルが上書きされます。 <InstallDir>/nonOV/jre/b/lib/security/cm-ec.keystore <InstallDir>/nonOV/jre/b/lib/cm-ec.truststore
回避策:	上書きされた 2 つのファイルをそのサーバーの正しいバージョンに置換してください。これらのファイルは、『HP Configuration Management SSL 実装ガイド』に記載されている通りに生成されています。

[バージョン情報] ウィンドウのキーボードナビゲーションが正しく配置されていない

問題:	[バージョン情報] ウィンドウの [閉じる] ボタンがデフォルトのボタンではありません。 TAB キーを使用してこのボタンに移動することができません。
原因:	[閉じる] ボタンは、デフォルトのボタンに設定されていません。
回避策:	マウスを使用して [閉じる] をクリックしてください。

ポップアップ ウィンドウの [X] ボタンにタブ移動できない

問題:	ポップアップ ウィンドウを閉じる [X] ボタンは、キーボードでアクセスできません。
原因:	Adobe Flex バージョン 2.01 および 3 の問題です。
回避策:	ポップアップ ウィンドウがアクティブであるときに、 ESC キーを押してください。ポップアップ ウィンドウを閉じるには、マウスを使用して [X] をクリックします。

仮想デバイスを削除してもデバイス リストから削除されない

問題:	実行中の仮想マシンを削除しようとすると、削除操作を実行できません。
原因:	仮想マシンの削除操作は、HPCA Portal の [全デバイス] コンテナからデバイスを削除しません。
回避策:	HPCA-CS デバイス カテゴリからデバイスを手動で削除してください。

VM イメージを削除する前にそれをシャットダウンする必要がある

問題:	実行中の仮想マシンを削除しようとすると、削除操作を実行できません。
原因:	VMware ESX Server では、仮想マシンを削除する前にそれらの仮想マシンの電源をオフにする必要があります。
回避策:	停止アクションを使用して、仮想マシンを停止してください。正常に停止したら、その仮想マシンを削除できます。

Extensions for Windows Installer

このリリースでの変更はありません。

Inventory Manager

- **ODBC DSN で 32 ビット ドライバが必要: 64 ビット システムで実行中の Client Automation コンポーネントは、32 ビット エミュレーション モードで実行します。**したがって、64 ビットの Windows プラットフォームで ODBC を使用する場合、32 ビット ドライバを使用する ODBC データベースの DSN を作成する必要があります。

Windows 64 ビット マシンで、C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、製品に必要な DSN を作成するか変更します。

Knowledge Base Server

- 次のホストで、SQL データベースへのデータのポストのサポートが追加されました。
 - SQL Server 2008
 - 最新の Oracle パッチ セットを適用した Oracle 11g リリース 1
- このリリースで、製品とガイドは、CM KB Server から HP Client Automation KB Server にブランド変更されました。

HPCA KB Server Administrator が不正なパスワードでナレッジベースを保存する

問題:	HPCA KB Server Administrator を使用してナレッジベースを追加または変更すると、そのナレッジベースは無効なパスワードで保存されることがあります。
原因:	ナレッジベース名を作成し、誤ったパスワードを入力した場合、「誤った認証情報」メッセージが記載されたエラー ウィンドウが表示されます。[キャンセル] をクリックしてエラー メッセージ ダイアログを閉じ、KB Server Administrator で [設定の保存] をクリックすると、そのナレッジベースのレジストリに無効のパスワード エントリが保存されます。
回避策:	ナレッジベースとともに誤ったパスワード エントリが保存されている場合、そのナレッジベースを削除し、正しいパスワードで新しいナレッジベースを作成してください。

Messaging Server

- **ODBC DSN で 32 ビット ドライバが必要: 64 ビット システムで実行される Client Automation コンポーネントは、32 ビット エミュレーション モードで動作します。**したがって、64 ビットの Windows プラットフォームで ODBC を使用する場合、32 ビット ドライバを使用する ODBC データベースの DSN を作成する必要があります。

Windows 64 ビット マシンで、C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、製品に必要な DSN を作成するか変更します。

- レポートの追加機能を提供するために、SQL レポート データベースに新しいテーブルまたはカラムが追加されました。詳細については、『Messaging Server Migration ガイド』を参照してください。

RMS ログにエラー「無効なコマンド名 "remove"」が表示される

問題:	通常、Messaging Server が処理する各メッセージ データ ファイル (df) には、メタ データ (qf) ファイルがあります。キューから対応する df ファイルのない qf ファイルを削除しようとすると、ログ ファイルにエラー メッセージ「無効なコマンド名 "remove"」が書き込まれてファイルが削除されません。
原因:	これは、df ファイルが削除されたのに qf ファイルが残っているという「普通ではない」状況下で発生します。一般に、df ファイルの処理中は qf ファイルは開いたままになります。エラーを受け取っても、キューの処理は停止しません。
回避策:	Messaging Server を停止し、対応する df ファイルがないアクティブなファイルまたは qf ファイルをキューから削除してください。その後で、Messaging Server のサービスを再起動します。

Multicast Server

このリリースでは新機能はありません。

OS Manager for UNIX

- Portal のユーザー インターフェイスはこのリリースで使用されなくなりました。OS Manager の管理タスクは、Enterprise Manager および Core Server コンソールに追加されました。

解決済み ESX 3.5 デバイスの状態が _U_ に維持される

問題:	VMware ESX 3.5 デバイスの状態が _U_ に維持されます。
原因:	VMware ESX 3.5 は、表示される Linux サービス OS コンソールの機能を制限します。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

7.2 に移行後、edmprof の PORTAL_HOST および PORTAL_PORT の値が誤っているか値が存在しない

問題:	HPCA Configuration Server および Database に移行後、edmprof の [MGR_ROM] セクションにある PORTAL_HOST および PORTAL_PASS エントリを確認します。
回避策:	必要に応じて、テキスト エディタを使用して、Portal の適切な値でエントリを更新してください。ファイルを保存した後、Configuration Server を再開する必要はありません。

SLES10 SP2 が autoyast.xml ファイルをマウントできない

問題:	SLES10 SP2 は autoyast.xml ファイルをマウントできません。
原因:	OS Manager 7.20 は SLES10 SP2 をサポートしません。
回避策:	なし

OS Manager for Windows

- Portal のユーザー インターフェイスはこのリリースで使用されなくなりました。OS Manager の管理タスクは、Enterprise Manager および Core Server コンソールに追加されました。
- OS.BEHAVIOR クラスの USERTO および EVNTDEST 属性は使用できなくなりました。
- T5720 および T5730 のシン クライアント デバイスの両方に配布する単一イメージをキャプチャする場合、キャプチャされたイメージを、T5730 用の出荷時のイメージから構築する必要があります。これにより、T5730 に必要なドライバ (T5720 出荷時のイメージには含まれていない) が確実に含められるほか、T5720 との下位互換性も維持されます。すべての T5730 出荷時のイメージには、イメージ拡張の実装に必要なユーティリティが含まれています。
- XPE シン クライアント デバイス上のイメージをキャプチャし、そのイメージをより大きなフラッシュ ドライブを実装した XPE シン クライアント デバイ스에配布する場合は、キャプチャしたイメージを、T5720 SoftPak ビルド 323 (sp33234.exe をダウンロードする 2006 年 7 月の 5.1.323 A 28) 以上を使用して作成する必要があります。
- T5545 Linux シン クライアントを使用している場合、Image Preparation Wizard を実行する前に fsunlock を実行する必要があります。実行するには、新しいターミナル ウィンドウを開始し、fsunlock と入力します。
- T5135 シン クライアント (HP Thin Connect を使用) を使用している場合、エージェントをインストールする前に /mnt パーティションを拡張する必要があります。これを行うには、Image Preparation Wizard メディアを使用してデバイスを起動すると、パーティションを拡張できます。この方法には外部 CD-ROM が必要です。
 - Image Preparation Wizard メディアを使用して、T5135 デバイスを起動します。
 - OS Manager サーバーの IP アドレスの入力を求められたら、**Alt+F2** キーを押して新しいセッションを開始します。
 - mount /dev/hda3 /mnt** と入力します。
 - cd /mnt** と入力して、ディレクトリを /mnt に変更します。
 - パーティションをバックアップするには、コマンド **tar -cvf /work/mnt.tar** を入力します。
 - cd /** と入力し、ルート ディレクトリに変更します。
 - umount /mnt** と入力し、/mnt ディレクトリのマウントを解除します。
 - fdisk /dev/had** と入力し、/dev/hda3 のパーティションを再分割します。
 - それぞれのプロンプト画面に次の値を入力します (太字)。
 - Command (m for help): **d**
 - Partition number (1-4): **3**

- c Command (m for help): **n**
- d Command action e extended p primary (1-4): **p**
- e Partition number (1-4): **3**
- f First cylinder (36-62, default 36): **Enter**
- g Last cylinder or +size or +sizeM or +sizeK (36-62, default 62): **Enter**
- h Command (m for help): **w**

10 **mkfs.ext2 /dev/hda3** と入力し、/dev/hda3 上にファイル システムを作成します。

11 **mount /dev/hda3 /mnt** と入力します。

12 **cd /mnt** と入力して、ディレクトリを /mnt に変更します。

13 **tar -xvf /work/mnt.tar** と入力し、パーティションを復元します。

14 **cd /** と入力し、ディレクトリを / に変更します。

15 **umount /mnt** と入力し、/mnt ディレクトリのマウントを解除します。

16 Image Preparation Wizard CD-ROM を取り出します。

17 デバイスを再起動します。

- T5135 シン クライアント (HP Thin Connect を使用) で Image Preparation Wizard を実行する前に、以下の手順を実行します。

1 /etc/configedit/config.ini の Computer Name の行を削除します。

2 HPCA エージェントをインストールします。

3 HP Thin Connect コンソールから、**[設定]** をクリックし、**[管理]** タブに移動して **[Start Altiris]** チェックボックスをオンにし、デバイスが再開した後に **Agent** が開始するようにします。

- 次の機能は、シン クライアントでサポートされていません。

- ハードウェア設定管理
- ドライブ レイアウトの定義
- マルチキャスト
- ホスト名の変更 (getmachinename.tcl)
- キャッシュ パーティションからの OS のインストール
- CD または DVD からの OS のインストール
- Sysprep
- Image PIC 互換性

これらの機能のインターフェイスは無効になっていないため、このことを認識しておく必要があります。これらの機能を使用する場合、シン クライアント デバイスで無視されるか予期しない結果が発生します。

- .WIM ファイルをパブリッシュする場合、オペレーティング システム リソースをパブリッシュするために使用されるデバイスの C:\ ドライブのデフォルトの場所に **Microsoft Windows Automated Installation Kit (WAIK)** をインストールする必要があります。WAIK は、Microsoft Web サイトから入手できます。標準の Vista インストールには含まれていません。
- すべての利用できるリンクを使用して **OS Manager** のインフラストラクチャに接続できない限り、**OS Manager** は複数の NIC カードに同時に接続している **Agent** をサポートしません。
- ターゲット デバイスへの **OS** イメージ ダウンロードが非常に遅い場合、**Proxy Server** の設定を変更し、ご利用の環境に合わせてダウンロードをチューニングできます。チューニングを有効にするには、次のセクションを **Proxy Server** の httpd.rc ファイルに追加します。



buffering 値を変更しないでください。

示されているとおりに情報を入力してください。すべてのパラメータと文字列の値は、大文字と小文字が区別されます。

```
Overrides Httpd {
    bufsize 16384
    buffering full
}
```

bufsize のデフォルト値は **32768** です。これを **16384** に下げると、パフォーマンスが向上することがあります。お使いの環境でのスループットを最適化するため、さまざまな値を試してください。



(従来の **HPCA Proxy Server** ではなく) **Apache** プロキシ サーバーを使用しても、ターゲット デバイスへのダウンロードが速くなります。

● 注意

- ImageDeploy.iso を使用する場合、WinPE SOS では romsinfo.ini での netif 設定の使用はサポートされていません。

解決済み Publisher が要約パネルに間違ったファイル サイズを表示する

問題:	.wim ファイルをパブリッシュするとき、要約パネルにサイズが「0」と表示されることがあります。
原因:	Publisher が合計ファイル サイズを正しく計算できないことがあります。
回避策:	バージョン 7.50 で修正済み。

解決済み 配布時に WNI イメージからファイルをコピーできないことがある

問題:	Vista より前の Windows オペレーティング システムを WNI イメージから配布すると、セットアップ中に Windows システム ファイルをシステム ドライブにコピーするステップでエラーになる場合があります。
原因:	割り当てられたシステム ドライブは、WNI 配布イメージからコピーしてすべてのファイルを入れるには小さすぎます。システム ドライブのサイズは、少なくとも 3 GB、または WNI イメージ自体の 2 倍のサイズが必要です。WNI イメージ サイズが小さすぎると、インストール ファイルを WNI イメージからシステム ドライブにコピーするには不十分なスペースしかないシステム ドライブが作成されます。
回避策:	バージョン 7.50 で修正済み。

解決済み WinCE シン クライアントでは、サブネットの場所を経由しての OS ポリシーの割り当てがサポートされていない

問題:	WinCE シン クライアントにおける OS 配布のポリシー解決のため、サブネットの場所を使用できません。
原因:	SMINFO オブジェクト内のサブネット値は、HPCA エージェントでは適切に取得されません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** WinPE SOS 実行時に「ブート操作が失敗しました」というメッセージが表示される**

問題:	繁体字中国語などの国際化されたプラットフォームで WinPE サービス OS から Windows ベースのイメージを配布した場合、システムが最初に Linux サービス OS を起動すると、エラーが発生する場合があります。 Linux サービス OS が、OS サービスを配布できない場合に発生することがあります (WinPE で配布する必要がある WIN イメージなど)。WinPE サービス OS で処理される必要がある国際化された OS サービス名またはハードウェア設定 (LME) 名を参照しているイメージ配布またはハードウェア設定要素では、システムが最初に WinPE サービス OS に起動して、国際化された OS またはハードウェア設定オブジェクト名を識別および処理する必要があります。
原因:	CA インフラストラクチャにより提供されたハードウェア設定要素 (LME) と OS のサービス名を含む XML ドキュメントは、WinPE サービス OS と Linux サービス OS とを切り替えられるときに、一貫してエンコーディングされません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

シンクライアント デバイスが RALF および HPCA エージェントを要求する

問題:	OS イメージ キャプチャ用にシンクライアント デバイスを準備する場合は、HP Registration and Loading Facility (RALF) と一緒にエージェントをインストールする必要があります。
回避策:	『Application および Application Self-service Manager ガイド』のシンクライアント エージェントのインストールに関する説明を参照してください。

先に RCS でポリシー付きで WinPE に起動すると、ImageX/WinSetup で DESIRED にいかない

問題:	ターゲット マシンが HPCA インフラストラクチャに新規に加わり、デフォルト SOS として WinPE を使用する場合、OS 配布後の最初の接続が機能せず、ImageX/WinSetup イメージの一部のクリーンアップ処理が行われない場合があります。
原因:	OS Management Agent は、一定の状況下では BEHAVIOR インスタンスに指定された設定を使用できず、_NULL_INSTANCE_ の設定を使用し、最初の接続で、ターゲット マシンを間違った Configuration Server や存在しない Configuration Server に接続しようとします。
回避策:	まず最初に Linux SOS に起動してください。すると、処理の一貫として WinPE を自動的に再起動します。

CAE75418N: エージェントが非 ASCII パス下にインストールされると、あるべき形にならない

問題:	HPCA エージェントがレガシー イメージで非 ASCII パス下にインストールされていると、OS 配布後の最初の接続ができません。
原因:	Linux SOS では、非 ASCII パスを解決することができず、RUNONCE.CMD を探しだせません。
回避策:	非 ASCII パス下に CA エージェントをインストールしないでください。

Solaris にインストールされた Configuration Server – OS 管理に追加ステップが必要

問題:	Solaris に Configuration Server がインストールされていると、OS 管理が正しく機能しません。
回避策:	1.edmprof の [MGR_ROM] セクションで PORTAL_ZONE の値を修正します。インストール中 ZONE 値に「hp」を入力した場合、PORTAL_ZONE も「hp」に設定されます。PORTAL_ZONE を「cn=hp,cn=radia」に変更します。この値は、HPCA Portal がインストールされた場所の etc\lmp.cfg で指定された値と一致する必要があります。 2. 不足している必須モジュールを Windows Radia Configuration Server の management_infrastructure\configuration_server\win32\media\modules\ フォルダから Solaris の <RCS installdir>/modules ディレクトリにコピーします。

Prepwiz リモート キャプチャ機能は設定可能でなければならない

問題:	ImageX/WinSetup キャプチャでは、ImageCapture.iso を使用していても、SOS をキャプチャするマシンにダウンロードする必要があります。
原因:	ImageX/WinSetup イメージについて、7.5 でリモート キャプチャ機能が導入されたため、SOS をローカル キャプチャ CD/DVD (ImageCapture.iso) から起動できなくなりました。
回避策:	なし

最初のアップロードの試みが失敗した後、ImageX/WinSetup イメージを再アップロードできない

問題:	ImageX/WinSetup イメージを作成し、初めてのアップロードの試みが失敗すると、マシンを再起動してもアップロード処理を再開しません。
原因:	ImageX/WinSetup イメージのアップロードに失敗すると、SOS ではアップロード処理を再開できなくなります。
回避策:	なし2 回目のアップロードの試みで SOS を起動しない場合、再度 Image Preparation Wizard を実行する必要があります。

LinuxSOS for HPCAS では、中国語、日本語、韓国語のローカライズされたメッセージ カタログがサポートされない

問題:	中国語、日本語、韓国語のローカライズされたメッセージ カタログの使用は、LinuxSOS for HPCA Starter および Standard ライセンスではサポートされません。
回避策:	なし

WinPE SOS では、フランス語 (fr) でのキーボード マッピング設定ができない

問題:	WinPE Service OS の場合、キーボードの設定は「de」および「fr」を完全にサポートする製品バージョンでのみサポートします。つまり、メッセージ カタログ「de_DE」および「fr_FR」を提供するバージョンということです。OS.BEHAVIOR インスタンス属性 KBDMAP はサポートされません。
回避策:	キーボードとメッセージを切り替えるには、OS.BEHAVIOR 属性 LANG を使用する必要があります。OS.BEHAVIOR インスタンス属性が LANG=de_DE または LANG=fr_FR のいずれかに設定されていると、ローカライズされたメッセージとキーボードの両方が関連付けられた言語に対して有効になります。 WinPE SOS での ROMA の動作は次のとおりです。インフラストラクチャから BEHAVIOR.LANG 設定をダウンロードするまでは、ROMA はメッセージを英語で表示します。BEHAVIOR.LANG 設定を受け取ると、ROMA は変更を検出し、WinPE SOS を起動してローカルを変更し、再起動します。再起動すると、すべてのメッセージが指定された言語になります。 これは、もっと一般的な意味でキーボードの設定には影響しません。キーボードは、ImageDeploy CD または Capture CD の PXE 設定ファイルまたは ROMBL.cfg ファイルの PEAPPNED 行に追加された KBDMAP=de パラメータを使って設定できます。

FBWF を使ったイメージのキャプチャ

問題:	FBWF (File Based Write Filter) を使用すると、EWF のような「確定」状態がありません。
原因:	FBWF (File Based Write Filter) を使用すると、EWF のような「確定」状態がありません。FBWF には、「有効」と「無効」という 2 つの状態があります。 イメージ キャプチャ中、prep wiz.exe を実行すると、prep wiz.ini ファイルが作成され、キャプチャ操作をガイドします。通常の操作では、OS はイメージ キャプチャ中は「有効」状態です。これは、prep wiz.ini ファイルがフラッシュ (メモリ) に書かれた場合でも、FBWF 状態が「有効」であるためユニット再起動時には保存されません。キャプチャ CD が起動すると、prep wiz.ini を探しますが、この時点では見つかりません。prep wiz.ini ファイルが見つからないと、Service CD としての実行に戻ります。
回避策:	次の手順に従って、FBWF 実行中のイメージを正常にキャプチャします。 1. FBWF を無効にします (再起動)。FBWF を無効にするには、Windows の DOS プロンプトに「fbwfmgr /disable」と入力して再起動します。 2. XPE エージェントを手動でインストールします。 3. Etprep を \Windows ディレクトリに、FBReseal を \Windows\FBA ディレクトリにコピーします。 4. 通常の手順で prep wiz.exe の実行を開始します。 キャプチャしたこのイメージを他のターゲット ユニットへの配布に使用すると、FBWF は通常の「有効」状態になります。

OS 配布ウィザードを使用すると、WinPE をデフォルト SOS として使用できない

問題:	配布メソッド PXE や LSB のデフォルト SOS が WinPE SOS に変更された場合でも、OS 配布ウィザードを使用して OS 配布を開始すると、マシンは Linux SOS に起動されます。
原因:	OS 配布ウィザードで作成した ROM オブジェクトは、PXE/LSB 設定をデフォルト値の Linux SOS に上書きします。
回避策:	この問題に対する回避策はありません。マシンは常に、まず Linux SOS に起動されます。必要に応じて WinPE SOS に再起動します。

OS のキャプチャで既存の ImageX イメージまたは WinSetup イメージを上書きできない

問題:	オペレーティング システムのキャプチャでは、upload フォルダに保存されている既存の ImageX イメージまたは WinSetup イメージを上書きしません。
回避策:	upload フォルダにある既存の OS イメージを、手動で削除するか名前を変更してください。

4.2 で作成した ROM サービス用の RCS が 7.2 では機能しない

問題:	Portal をバージョン 4.2 から 7.20 に移行すると、ROM サービス用の RCS が機能しなくなります。
回避策:	romadmin として Portal にログインし、デスクトップから ROM サービス用の RCS を削除します。[ゾーン] > [設定] > [Configuration Server] > [HPCA Database] と選択して、[デスクトップ ショートカットの追加] アイコンをクリックします。

Winpe.wim に VMware NIC ドライバがない

問題:	Winpe.WIM に VMware ドライバが含まれていません。
原因:	CM OS Manager で提供される Winpe.WIM には VMware で使用されるネットワーク ドライバが含まれていません。

使用するネットワーク オプションを要求するウィンドウが開く

問題:	Vista メディアから install.WIM ファイルを配布した後でターゲット デバイスが Vista に起動されると、ウィンドウが開いて使用するネットワーク オプションを要求してきます。
回避策:	これは、Microsoft の既知のバグによるもので、ユーザーはエンタープライズ環境に基づいて適切な選択を行う必要があります。

Vista を UDF 形式の DVD からインストールすると、Windows ボリュームが検出されない

問題:	ImageDeploy.iso を使用すると、WinPE で [CD または DVD からの OS のインストール] を選択した場合に「Windows ボリュームが検出されませんでした」エラーが表示されます。
原因:	CD/DVD が UDF 形式です。
回避策:	UDF 形式を使用せずに CD/DVD を作り直してください。

インフラストラクチャ コンポーネントの 4.2 からの移行で、OS Manager 接続ができない

問題:	CM インフラストラクチャ コンポーネントを 4.2 から 7.2 に移行すると、4.2 エージェントは OS Manager 接続を実行できず、エラーになります。
原因:	CM インフラストラクチャ 7.2 と CM エージェント 4.2 OSM クライアント メソッドとの間には、移行の互換性と下位互換性がありません。
回避策:	エージェントをバージョン 7.2 に移行してから、OS Manager 接続を実行してください。

OSM がダウンしていると、イメージ アップロード中に情報が何も表示されない

問題:	イメージのアップロード中に OS Manager Server が実行されていないと、間違ったエラー メッセージを表示してアップロードが失敗します。
原因:	このエラー条件は正しく把握されておらず、処理が続行されて別のエラーになります。
回避策:	OS Manager Server を起動し、マシンを再起動してイメージをアップロードし直してください。

WinCE: OS プロンプトに「NO」と答えると、ジョブが成功になる

問題:	WinCE にメッセージが表示され、ユーザーが OS を配布しないと選択した場合に、Enterprise コンソール上の OS 配布ジョブが成功と表示されます。
原因:	WinCE が、ジョブがキャンセルされたことを通知する正しいリターン コードを返していません。
回避策:	なし

移行後のデータベースが最新にならない

問題:	Configuration Server Database を v7.50 に移行した後 (『Configuration Server および Database 移行ガイド』の「Upgrading a Windows Database」の章の手順に従う)、OS ドメイン内のリソースの一部が最新ではなくなります。
原因:	移行に使用されるデータベース デッキに、最新ファイルが含まれていません。
回避策:	データベースの移行が完了した後、次の手順を実行してください。 0. os.xpi および os.xpr を <Configuration Server install media>\management_infrastructure\configuration_server\dbdecks\osmgr から <Configuration Server install directory>\bin ディレクトリにコピーします。 0. 実行中の Configuration Server サービスを停止します。 0. コマンド プロンプトを開き、ディレクトリを <Configuration Server install directory>\bin に変更します。 0. 次のコマンドを実行します。 ZEDMAMS VERB=IMPORT_INSTANCE,FILE=os.xpi,XPR=os.xpr,TIME=OLD,PREVIEW=NO,DUPLICATES=MANAGE,CONTINUE=YES,REPLACE=YES

ハードウェア設定管理

このリリースでの変更はありません。

Patch Manager

HPCA Enterprise (従来のインストール)

● Patch Manager Administrator:

- すっきりしたユーザー インターフェイスでさらに画面を移動しやすくなり、オンライン ヘルプとオンライン ガイドが追加されました。
- タスクを、[設定]、[オペレーション]、[ステータスとログ] の領域にグループ化し直しました。
- [設定] タスクは、[環境の設定]、[取得の設定]、[取得ジョブ] にグループ化されます。
- [Patch Manager Administrator] ページの右上にある [ヘルプ] ボタンからオンライン ヘルプを利用できます。オンライン ヘルプは、別のウィンドウに開かれ、そこではヘルプ トピックやオンライン ガイドを参照したり検索したりできます。
- 新規タスクには、ログをオンラインで表示する機能があります。

● このリリースでは、Windows および Linux オペレーティング システムを実行しているデバイスのパッチ管理をサポートし、HP Softpaq のサポートも追加されました。

- RedHat 版のサポートが変更になりました。RedHat バージョン 2.1 および 3 のサポートを終了し、RedHat バージョン 5 および 5.3 のサポートが追加されました。
- SuSE 版のサポートが変更になりました。SuSE 8 のサポートを終了しました。| SuSE 10 のサポートは、SuSE Linux Enterprise Desktop (SLED) と SuSE Linux Enterprise Server (SLES) の両方が追加されました。



HPCA Patch Management では、Novell の SuSE 10 ライセンスまたは登録に関するポリシーが満たされているかどうかは検証されません。Novell のポリシーへの準拠と、有効なライセンスによる SuSE 10 マシンの登録は、お客様の責任において実施してください。

● このリリースでは、HP-UX または Solaris オペレーティング システムを実行するデバイスでのパッチ管理をサポートしません。

- このリリースでは、Download Manager 用の Patch Agent オプションが追加されました。この新機能により、指定されたパッチを、通常の HPCA エージェント接続プロセス以外の管理対象デバイスに適用するのに必要なコンテンツを転送できるようになります。転送処理は、設定された制約のとおり、受動的に処理されます。詳細については、『HPCA Patch Manager インストールおよび設定ガイド』のトピックを参照してください。
- レポートおよびダッシュボード:
 - パッチ管理ダッシュボードは、Enterprise Manager の [ダッシュボード] タブから使用できます。詳細については、『HPCA Enterprise Manager ユーザー ガイド』を参照してください。
 - パッチ管理 Reporting Server レポートがすぐに表示されます。このリリースでのバックエンド処理とテーブル変更では、大規模エンタープライズ用レポートのすばやい描画を可能にします。
 - 新機能 [概要] は、パッチ適用状況のスナップショットを 4 種類提供し、詳細レポートへと掘り下げられます。
 - 適用状況レポートには、新規レポートと変更されたレポートが含まれます。[パッチのステータス]、[製品のステータス]、[リリースのステータス] の 3 つのレポートがあり、生成するには Patch Agent のバージョン 7.50 が必要です。エージェントをバージョン 7.50 に移行しないと、レポートに表示されるレコードは 0 件になります。
 - パッチ レポートの詳細については、『Patch Manager インストールおよび設定ガイド』の「Assessment, Analysis and Reports」の章か、Patch Manager Administrator オンライン ヘルプを参照してください。
- ODBC DSN で 32 ビット ドライバが必要: 64 ビット システムで実行される Client Automation コンポーネントは、32 ビット エミュレーション モードで動作します。**したがって、64 ビットの Windows プラットフォームで ODBC を使用する場合、32 ビット ドライバを使用する ODBC データベースの DSN を作成する必要があります。

Windows 64 ビット マシンで、C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe を実行して 32 ビット ODBC Data Source Administrator にアクセスし、製品に必要な DSN を作成するか変更します。

****解決済み** CM 5.11: Red Hat Enterprise Linux 5 x86-64 システムに対してエンタイトルメントが設定されたブリテンの一部のパッチがインストールできない**

問題:	Red Hat Enterprise Linux 5 x86-64 システムで、エンタイトルメントが設定されたブリテンの一部のパッチがインストールできません。
原因:	Red Hat Enterprise Linux 5 x86-64 オペレーティング システムに対するブリテンの一部に、x86 および x86-64 両方のアーキテクチャ対応の Red Hat Package Manager (RPM) パッケージが含まれています。このようなブリテンについては、Patch Manager は一方のアーキテクチャ対応のもののみをインストールするため、検証に失敗します。
回避策:	バージョン 7.20 で解決済み。

****解決済み** バージョン 3.0.3 から 7.20 に移行した後、パッチ レポートに適用可能な製品数が間違っ表示される**

問題:	Reporting Server で、「適用状況 (デバイス別)」および「簡素化された適用状況 (デバイス別)」の Patch Manager レポートに表示される適用可能な製品の列の合計が間違っています。しかし、その数値をクリックして製品を表示すると、適用可能な製品が正しく一覧表示されます。
原因:	これは、Patch Manager 3.0.3 から Patch Manager 7.20 へ移行した後の既知の問題です。
解決策:	HPCA 7.50 で解決済み。

Patch Agent オプション: Download Manager - 初期化遅延の指定は秒単位でなく分単位で示される

問題:	「遅延初期化」属性は、次の操作で表示される Patch Administrator Console のページで秒単位ではなく、分単位で示されます。 [設定] > [環境の設定] > [エージェント オプション] ページ > [Download Manager オプション]
原因:	このユーザー インターフェイスでは、「遅延初期化」値は秒単位に変換されません。変換が必要なのは、その値が Configuration Server Database > PRIMARY (ファイル) > PATCHMGR (ドメイン) > CMETHOD (クラス) > DISCOVER (インスタンス) に書き込まれるときです。
回避策:	手作業で分を秒に換算し、Download Manager の「遅延初期化」属性値に秒単位で入力してください。

Patch Agent オプション: Download Manager (RADSTGRQ): ネットワーク利用が適切に機能していない

問題:	「ネットワーク バンド幅」および「スクリーンセーバー モードでのネットワーク利用」に対する Patch Agent Download Manager のオプションが適切に機能せず、Patch Manager Agent にマイナスの影響が出ているようです。
原因:	これらの Download Manager オプションが期待どおりに機能していません。
回避策:	回避策はありません。Download Manager が使用するネットワークのバンド幅を制御するために、このオプションを使用しないでください。Patch Agent の [オプション] ページで Download Manager のオプションを設定するときに、[ネットワーク バンド幅] および [ネットワーク利用] のフィールドには、何も入力しないでください。

Patch Manager Agent: Configuration Server の PUSHBACK を設定しても、Patch Agent で有効にならない

問題:	Configuration Server からのプッシュバックが有効にならないため、パッチ接続の [再試行] オプションは適切に機能しません。
原因:	[再試行] オプションが正しく機能するには、patchagt.tkd と nvdkit という 2 つのコンポーネントの変更が必要です。
回避策:	次のサイトから、patchagt.tkd と nvdkit への修正プログラムを探し、入手できる場合には適用してください。 1. patchagt.tkd に対する修正は、HP Patch Manager 更新 Web サイトにポストされ、後にエージェントの更新の一部となります。エージェントの更新は、パッチの取得中に入手でき、修正は自動的にパブリッシュされ、配布されます。 2. nvdkit の修正情報は、[エージェントの更新情報] ページにポストされます。

メディアに事前にパッケージされているブリテンは、パッチを全く配布しない

問題:	製品に事前にパッケージされているブリテンは、パッチを全く配布しません。
原因:	メディアに事前にパッケージされているブリテンには、パッチ バイナリが含まれていません。そのため、パッチのインストールには使用できません。これは、パッチ探索で使用できるよう意図したものです。
回避策:	事前にパッケージされたブリテンのパッチを取得して配布するため、FORCE オプションと REPLACE オプションを YES にして取得を実行してください。FORCE オプションと REPLACE オプションを YES にせず取得すると、機能しません。

パッチ レポート: 依存パッケージ要件付きの SuSE 10 パッチが間違っ「パッチ インストール済み」として報告される

問題:	SuSE 10 システムでは、依存パッケージがシステムにないと、エンタイトルメントを指定されたブリテンのいくつかに対するパッチがインストールできません。エージェント接続 (radconnect) がエラー 709 で終了します。しかし、Reporting Server では、[適用状況 (パッチ別)] ページに報告されるステータスは [パッチ インストール済み] のままです。
原因:	SuSE 10 システムでパッチのインストールに失敗すると、[パッチ インストール エラー] ステータスの HPCA オブジェクトが更新されません。
回避策:	Patch Manager からパッチをインストールする前に、パッチに必要な依存パッケージのすべてがすでにインストール済みで、SuSE 10 システム上にあることを確認してください。必要な依存パッケージがない場合は、エンタイトルメントが設定されたブリテン用のパッチをインストールする前にインストールしてください。依存パッケージがすべて揃っていれば、パッチのインストールは成功します。

Policy Server

このリリースでの変更はありません。

Portal

- Portal のユーザー インターフェイスはこのリリースで使用されなくなりました。



HPCA Portal ユーザー インターフェイス: HPCA の統合コンソールの登場、OS および HPCA エージェント配布ウィザードなどのさまざまなアップグレード機能の追加、またロール ベースのアクセス制御により、HPCA Portal のレガシー ユーザー インターフェイス機能が HPCA コンソールとなりました。

従来の HPCA 環境では、HPCA Portal のレガシー ユーザー インターフェイス機能に代わって Enterprise Manager コンソールが導入されています。

ただし、基盤となる Portal サービスは、デバイスおよびグループ リポジトリの管理のほか、HPCA エージェント配布などの特定のジョブ クラスのジョブ エンジン サポートの提供において、引き続き重要な役割を果たします。

- 『Portal インストールおよび設定ガイド』(Portal IC ガイド) が更新され、Portal のユーザー インターフェイスとタスクへの言及がすべて削除されました。現在ガイドには、インストール、OpenLDAP ディレクトリ サービスと Portal ゾーンの詳細、設定オプション、およびトラブルシューティングのトピックがあります。
- 次の Portal 設定パラメータ (rmp.cfg) が『Portal IC ガイド』に追加されました。
 - WS_TOKEN_TTL – Portal Web サービス セッションのタイムアウト パラメータ。

ドキュメントの修正

- 「トラブルシューティング」の章の「Portal Web サービス トークンの管理」トピックでは、Core コンソールに言及しています。Core コンソールが WS_TOKEN_TTL パラメータを使用してセッション タイムアウト期間の制御を行うことはないため、これは間違いです。

修正前: 「During normal usage of the Enterprise Manager Console or Core Console the token is routinely refreshed.」(Enterprise Manager コンソールまたは Core コンソールの通常の使用では、トークンは定期的に更新されます。)

修正後: 「During normal usage of the Enterprise Manager Console the token is routinely refreshed.」(Enterprise Manager コンソールの通常の使用では、トークンは定期的に更新されます。)

Portal 移行: セルフメンテナンスで、空白を含むパスにインストールされた Portal Agent (RMA) をアップグレードできない

問題:	Portal をバージョン 7.20 に移行すると、Portal Agent が「C:\Program Files\Hewlett-Packard\CMManagementAgent」などのように、空白を含むパスにインストールされている場合、セルフメンテナンス機能を使用して Portal Agents をアップグレードすることができません。
原因:	セルフメンテナンス機能は、インストールパスに空白が含まれている Portal Agent のアップグレードをサポートするよう修正が必要です。
回避策:	「HP Software サポート オンライン」Web サイトで、Portal セルフメンテナンス機能に関するダウンロード可能なソフトウェアパッチがないか確認してください。 または、 Portal コンソールの [Portal Agent のインストール] タスクを使用して、ゾーン内のすべてのデバイスに Portal Agent の最新版を配布してください。

バージョン 2.1 からの Portal 移行で、edmpolicy 属性が移行できない

問題:	RMP バージョン 2.1 からバージョン 7.5 への移行により、移行後 edmpolicy 属性が失われることがあります。
原因:	edmpolicy 属性は、2.1 (metakit) からは移行されないため、デバイスポリシーが失われます。HP では修正を確認済みで、7.2 移行スクリプトに適用しました。これを 7.5 の移行スクリプト (rmp_migrate.tkd) にも適用する必要があります。
回避策:	HP が 7.5 の rmp_migrate.tkd に適用可能な修正を作成するまでの回避策は、まず 2.1 Portal データを 7.2 に移行し、それから 7.2 Portal データを 7.5 に移行することです。

Portal でネットワーク探索が有効になっていると、Enterprise Manager コンソールのターゲットビューに、ジョブの実行が全く表示されない

問題:	Portal でネットワーク探索が有効になっていると、Enterprise Manager コンソールの [ターゲット] ドリルダウンビューに、ジョブの実行が全く表示されません。
原因:	Portal ネットワーク探索ジョブに対し、特定のフィールドが Null になり、ジョブの実行が表示されると例外を引き起こします。
回避策:	ジョブの実行を表示するには、個々のジョブから掘り下げてください。 または、 Portal のインストール時またはインストール後は、ネットワーク探索をオフにします。詳細については、『Portal Installation and Configuration ガイド』を参照してください。ネットワーク探索をオフにしても、Portal の機能には影響しません。

Proxy Server

- 表 1 は、Proxy Server について、このリリースでサポートするすべてのオペレーティングシステムの一覧です。

RIS ベースの Proxy Server は、非 ASCII パスにインストールできない。

問題:	マルチバイト文字が、INI ファイルに書き込まれません。
原因:	インストーラは、setup.exe を使用して、現在アクティブなコードページに設定を書き込みます。インストールを英語ロケールで実行し、インストールパスにマルチバイト文字が使用されている場合に、マルチバイトシステムではこれが問題になります。
回避策:	ソフトウェアをインストールするときに、ネイティブロケールを使用してください。そうすると、マルチバイト文字が正しいコードページで INI ファイルに書き込まれます。

AIX および Solaris オペレーティング システムでは、SSL TCPS を使った Proxy Server のプレロードがサポートされていない

問題:	AIX および Solaris オペレーティング システムでは、SSL 機能がサポートされていません。そのため、それらのオペレーティング システムでは、SSL TCPS を使った Proxy Server のプレロードが機能しません。
原因:	なし。AIX および Solaris での SSL サポートは、これまでもサポートされていません。
回避策:	この問題に対する回避策はありません。 SSL TCPS を使った Proxy Server のプレロードは、Windows および Linux オペレーティング システム限定です。

マルチキャストを使った Proxy Server のプレロードが UNIX/Linux で機能しない

問題:	マルチキャストを使った Proxy Server のプレロードが UNIX/Linux で機能しません。 SUSE 接続ログに、次のエラーがあります。 Error opening control object [MULTICAST] in [/opt/HP/CM/IntegrationServer/etc/rps/] このエラーが発生するときは、MULTICAST オブジェクトは無視され、接続はユニキャストになります。
原因:	現時点では、原因不明です。
回避策:	この製品のリリース後にパッチ発行の予定です。

Reporting Server

- 適用状況管理レポート パックが追加されました。

****解決済み**バージョン 3.0.3 から 7.20 に移行した後、パッチ レポートに適用可能な製品数が間違っ**

問題:	Reporting Server で、[適用状況 (デバイス別)] ビューおよび [簡素化された適用状況 (デバイス別)] ビューに表示される適用可能な製品数が間違っています。しかし、その数値をクリックして製品を表示すると、適用可能な製品が正しく一覧表示されます。
回避策:	この問題は、バージョン 7.50 で解決済みです。

Security and Compliance Manager

脆弱性管理 (HPCA バージョン 7.20 で導入) に加え、HPCA に適合状況管理およびセキュリティ ツール管理機能が加わりました。この機能セットには、次のものが含まれます。

- HP Live Network サブスクリプション サービスの拡張。クライアント設定用に定期的に更新される **Security Content Automation Protocol (SCAP)** データ ストリーム、SCAP 認定された適用状況スキャナ、セキュリティ ツール管理スキャナを含みます。
- Federal Desktop Core Configuration (FDCC)** 米国連邦政府のデスクトップ基準) ベンチマークなど、SCAP 形式で定義された設定標準に準拠しているか、クライアント デバイスをスキャンする機能。
- クライアント デバイスをスキャンする機能により、次の点を判断します。
 - 各デバイスでインストールされ有効になっているウイルス対策、スパイウェア対策、およびファイアウォールのツールはどれか
 - 最近各デバイスでウイルスやスパイウェアの定義が更新されたのはいつか
 - 最近各デバイスでウイルスやスパイウェアのチェックを行ったのはいつか

- 適用状況管理レポートおよびセキュリティ ツール レポートの導入。これらの新しいレポートにより、既存の適合状況コンテンツとそれぞれの環境で実行されたスキャンの結果を見直すことができます。次のタイプのレポートを使用できます。
 - 概要 — 高リスク領域をすばやく特定します
 - SCAP レポート — 使用可能な SCAP ベンチマークおよび規則の表示と評価を行います
 - 製品レポート — それぞれの環境で検出された特定のウイルス対策製品、スパイウェア対策製品、およびファイアウォール製品に関する情報を表示します
 - デバイス レポート — デバイス適用状況とセキュリティ ツールの問題を詳細に表示します
 - HPCA Enterprise コンソール (従来のコンポーネント ベースのインストールでの Enterprise Manager) に対する拡張と更新。これには、次の機能が含まれます。
 - 新しい適用状況管理ダッシュボード
 - 新しいセキュリティ ツール管理ダッシュボード
 - HPCA 環境での HP Live Network サブスクリプション サービスの設定と操作のサポートの拡張。これには、HP Live Network サービスへのアクセスの設定、HP Live Network からデータをプルするタイミングの確立、HPCA 配布で使用するためのこのデータの保管場所の設定が含まれます。
 - HP Live Network 設定を保存する前にテストできる新しいトラブルシューティング機能。
-  Enterprise Manager の既知の問題の一部が Security and Compliance Manager にも関係します。詳細については、「[Enterprise Manager](#)」(43 ページ)を参照してください。

Windows Terminal Server および Citrix のサポート

このリリースでの変更はありません。

サポート

次の HP Software サポート Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトでは、HP Software が提供する製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

HP Software オンライン ソフトウェア サポートでは、お客様がご自身で問題を解決するのに役立つ機能を用意しています。また、ビジネスの運営で求められる、対話型の技術サポート ツールにすばやく効率的にアクセスする方法を用意しております。サポートを受けるお客様は、サポート サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある分野のドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認

- 他のソフトウェア ユーザーとのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート エリアのほとんどでは、**HP Passport** ユーザーとして登録し、サインインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要になります。

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

法定の通知

サード パーティ ライセンス契約に関する詳細は、製品インストール メディアの License ディレクトリを参照してください。

©Copyright 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

コンピュータソフトウェアの機密保持。所有、使用、または複製を行う場合には、**HP** からの正規のライセンスが必要です。**FAR 12.211** および **12.212** に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売業者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、**HP** はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

サード パーティ ライセンス契約に関する詳細は、製品インストール メディアの License ディレクトリを参照してください。

Adobe® および **Acrobat®** は **Adobe Systems Incorporated** の登録商標です。

The Apache Software License, Version 1.1

この製品には、**Apache Software Foundation** (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

Copyright © 1999-2001 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Linux は、**Linus Torvalds** の登録商標です。

Microsoft®、**Windows®**、および **Windows® XP** は、**Microsoft Corporation** の米国における登録商標です。

OpenLDAP は、**OpenLDAP Foundation** の登録商標です。

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER

Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER

Copyright © 1983, 1993

The Regents of the University of California.

OpenLDAP

Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.

Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License

Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License

Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar

Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

Lab PullParser

Copyright © 2002 The Trustees of Indiana University. All rights reserved.

ソースおよびバイナリ形式での再配布と使用は、修正を加えた場合でも加えない場合でも、以下の条件に合致する場合に提供が許可されます。

- 1) ソース コードのすべての再配布において、上記の著作権表示、オリジナル ソース コードにある作者一覧、この条件一覧、およびこのライセンスに示された免責条項を保持すること。
- 2) バイナリ形式でのすべての再配布において、配布時に付属するドキュメントまたはその他の資料に、上記の著作権表示、この条件一覧、およびこのライセンスに示された免責条項を複製すること。
- 3) すべての再配布に含まれるすべてのドキュメントには、次の確認事項を含めること。

「この製品には、**Indiana University Extreme! Lab** の開発したソフトウェアが含まれます。詳細は <http://www.extreme.indiana.edu/> を参照してください。」または、この確認事項が、ソフトウェア自体に、また、通常、サードパーティの確認事項などが表示される場所に表示されるようにすること。

4) 「**Indiana University**」および「**Indiana University Extreme! Lab**」の名称は、**Indiana University** からの事前の書面による許可なしに、このソフトウェアから派生する製品の保証または宣伝には使用しないこと。書面による許可については、<http://www.extreme.indiana.edu/> にお問い合わせください。

5) このソフトウェアから派生した製品には、**Indiana University** からの事前の書面による許可なしに、「**Indiana University**」名を使用すること、および、名前に「**Indiana University**」が表示されることがないようにすること。提供したソース コードが、他者の特許その他の知的財産権を侵害していないことに関して、**Indiana University** が再保証を与えることはありません。その反対に、**Indiana University** は、知的財産権の侵害に基づく他者からの申し立てを受ける責務を放棄します。